使用説明書

お買い上げありがとうございます。
このカメラの機能を十分に活用していただくために、この使用説明書をご使用前にお読みください。
またお読みになったあとは、保証書、アフターサービスのご案内とともに大切に保管してください。

目次

この使用説明書は1993年10月につくられたものです。それ以降に発売されたアクセサリーとの組み合わせについては、本書裏面に記載の当社サービスセンターまたはサービスステーションにお問い合わせください。

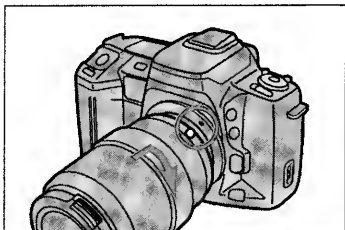
撮影早わかり

（詳しくは本文をご覧ください）

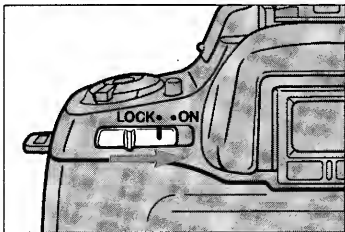
1

電池を入れます。

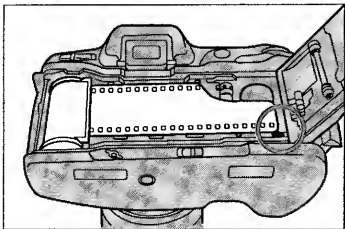
電池(2CR5　1個)を、電池室のふたの表示にしたがって入れます。

2

レンズを取り付けます。

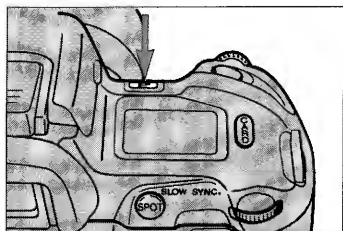
レンズとボディの2つの赤い点を合わせてはめ込み、カチッとロックがかかるまで時計方向に回します。

3

電源を入れます。

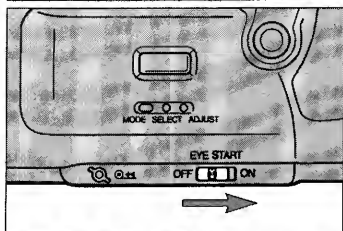
メインスイッチをONにします。

4

フイルムを入れます。

フイルムの先端を赤いマークに合わせ、裏ぶたを閉じます。

5

全自動にします。

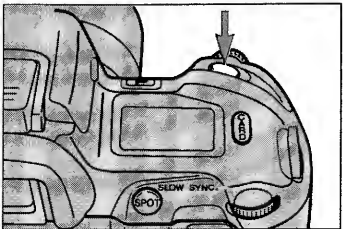
プログラムセットボタンを押します。

6

アイスタートスイッチをONにします。

7

カメラを構えます。

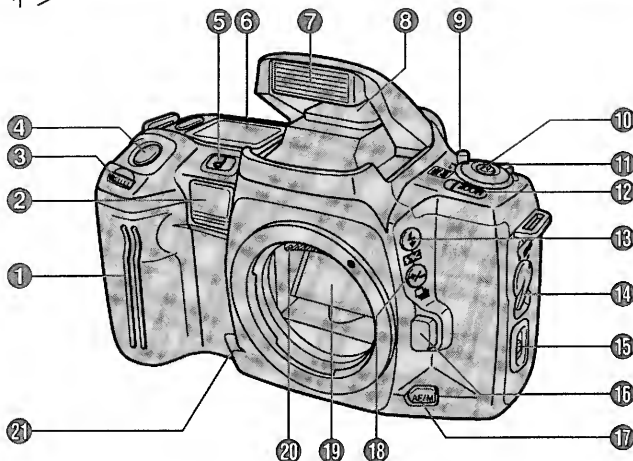
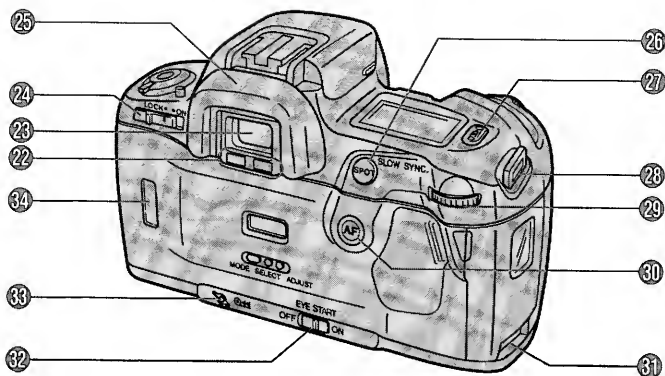
写したいものが［ ］に入るように、カメラを構えます。

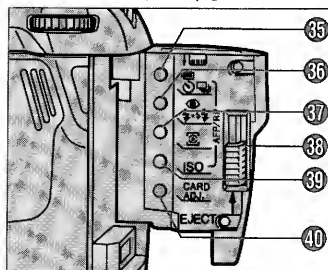
8

撮影します。

シャッターボタンをゆっくり押し込んで撮影します。

各部の名称

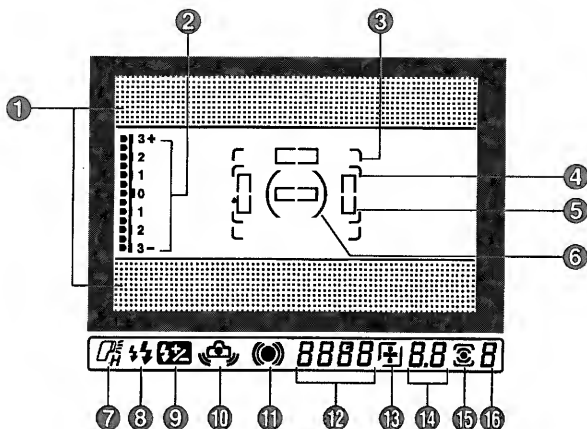
(　)内は参照ページの番号です。
＊印の付いたところは、触らないように気を付けてください。

＜ボディ＞

① グリップセンサー(18)
② AF補助光発光部／セルフタイマーランプ(82,85)
③ 前ダイヤル
④ シャッターボタン
⑤ プログラムセットボタン(21)
⑥ ボディ表示部(7)
⑦ 内蔵フラッシュ(52〜56)
⑧ オートロックアクセサリーシュー
⑨ レバーロック解除ボタン(70)
⑩ 登録呼び出しボタン(70)
⑪ 登録レバー(70)
⑫ モードボタン(34)
⑬ フラッシュ強制発光ボタン(53)
⑭ パノラマ切り替えレバー(71)
⑮ 裏ぶた開放レバー(13,15)
⑯ レンズ交換ボタン(12)
⑰ フォーカスモードボタン(75)
⑱ 露出補正ボタン(45,61,80)
⑲ ミラー*
⑳ AFレンズ信号接点*
㉑ プレビュー(絞り込み)ボタン(79)

⑫アイセンサー*(18)
⑬ファインダー*(8)
⑭メインスイッチ(11,16)
⑮アイピースカップ(10)
⑯スポットAELボタン(48,60,65)
⑰カードキー(89)
⑱ストラップ取り付け部(10)
⑲後ダイヤル
⑳AFボタン(25,27)
㉛リモートレリーズターミナル
㉜アイスタートスイッチ(18)
㉝途中巻き戻しボタン(15)
㉞フイルム確認窓

カードホルダー内

㉟セルフタイマー／
巻き上げモードボタン(16,81,82)
㊱フラッシュモードボタン(56,63)
㊲測光方式選択ボタン(44)
㊳カードイジェクト(取り出し)レバー(89)
㊴フイルム感度設定ボタン(78)
㊵カードアジャスト(設定)ボタン

＜ボディ表示部＞

①フイルム感度表示
②シャッター速度／フイルム感度／選択フォーカスフレーム表示
③露出補正マーク
④絞り値／露出補正値／フラッシュ光量補正値表示
⑤セットマーク
⑥フラッシュ光量補正表示
⑦露出補正表示
⑧ブラケット表示
⑨カードマーク
⑩フイルムカウンター
⑪フイルムマーク
⑫パトローネマーク
⑬巻き上げモード表示
⑭セルフタイマー表示
⑮レリーズ優先表示
⑯フォーカスエリア表示
⑰マニュアルフォーカス表示
⑱測光方式表示
⑲ハイスピードシンクロマーク
⑳フラッシュモード表示
㉑撮影モード表示
㉒電池容量表示

＜ファインダー表示部＞

スクリーン内表示

①パノラマフレーム

②測光インジケーター

③ワイドフォーカスフレーム
（カメラ横位置用）

④ワイドフォーカスフレーム
（カメラ縦位置、パノラマ撮影時用）

⑤ローカルフォーカスフレーム

⑥スポット測光フレーム

スクリーン外表示

⑦フラッシュ撮影表示／
ハイスピードシンクロマーク

⑧フラッシュ充電完了／調光確認／赤目軽減プリ発光／ワイヤレスフラッシュ表示

⑨フラッシュ光量補正表示

⑩手ぶれ表示

⑪フォーカス表示

⑫シャッター速度／フイルム感度／
選択フォーカスフレーム表示

⑬露出補正マーク

⑭絞り値／露出補正値／
フラッシュ光量補正値

⑮測光方式表示

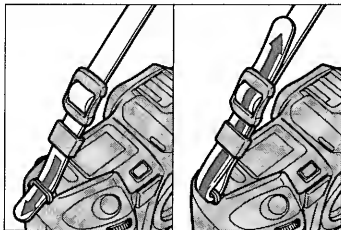
⑯フイルム残数表示

簡単に写せます

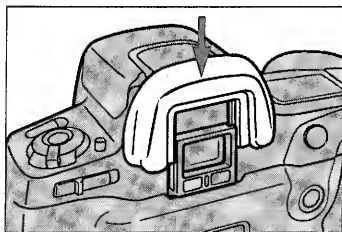
この章では、撮影前の準備と、もっとも簡単な撮影方法を説明しています。初めてカメラをご使用になる方でも、この章をお読みいただければ簡単に撮影できます。

ネックストラップ／アイピースカップの取り付け方

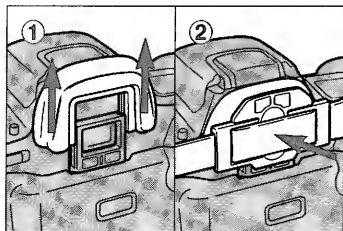
お使いになる前に、付属のネックストラップとアイピースカップを取り付けてください。

ネックストラップ

左図のように取り付けます。

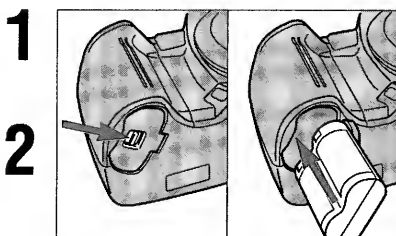
- 反対側も同様に取り付けます。
- 別売の縦位置コントロールグリップと合わせて使用される場合は、縦位置コントロールグリップの使用説明書をご覧ください。

アイピースカップ

接眼枠の上から差し込みます。

アイピースキャップの取り付け方

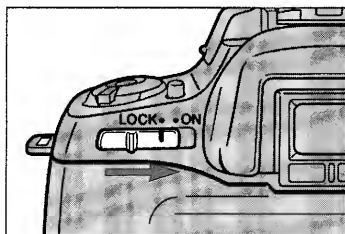
バルブ（長時間露光）撮影（41ページ参照）やセルフタイマー撮影（82ページ参照）で、ファインダーから光が入るのを防ぐために使用します。

アイピースカップを下から押し上げるようにして外し①、アイピースキャップをはめ込みます②。

電池の入れ方

使用する電池は6Vパックリチウム電池2CR5 1個です。

1 電池室開放レバーを矢印の方向へ押して、電池室のふたを開けます。

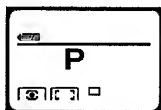
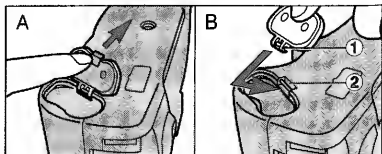
2 電池室ふたの表示にしたがって電池を入れ、ふたを閉じます。

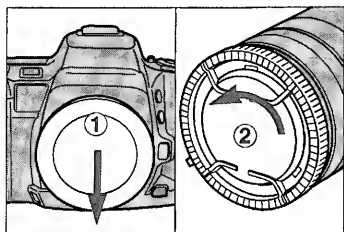
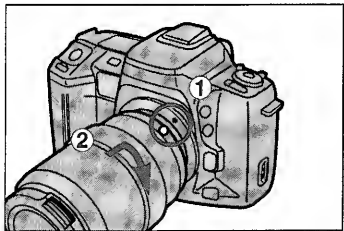
＜電池の容量＞

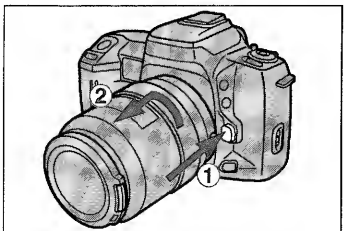
メインスイッチをLOCKからONにすると、自動的に電池容量のチェックが行われ、ボディ表示部にその結果を表示します。

▭ 点灯(4秒間)
電池容量は十分です。

◨ 点灯(4秒間)
新しい電池を準備することをおすすめします(撮影はできます)。

◨ 点滅　電池を交換することをおすすめします(撮影はできます)。

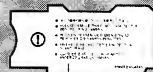
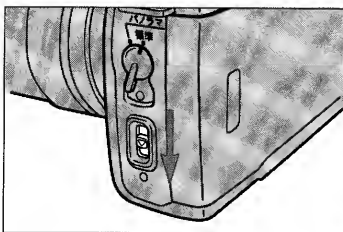
◨ のみ点滅(他の表示すべて消灯)
シャッターは切れません(撮影できません)。
電池を交換してください。

縦位置コントロールグリップVC-700(別売)を取り付けるときは、電池室のふたを取り外します。矢印の方向に軽く押すと外すことができます(図A)。外したふたを元通り取り付けるときは、溝の部分①を、電池室内の軸②にはめ込むようにします(図B)。

レンズの取り付け方／取り外し方

取り付け方

ボディキャップ①、レンズの後ろキャップ②を外します。

レンズとカメラの2つの赤い点①を合わせてはめ込み、カチッと音がするまで矢印方向に回します②。

取り外し方

メインスイッチをLOCKにし、レンズ交換ボタンを押したまま①、レンズを図の方向に止まるまで回して取り外します②。

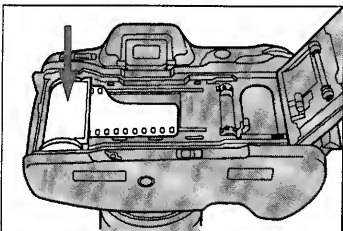
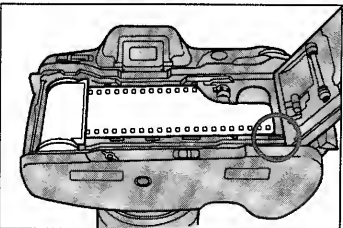
● 取り外した後は、キャップを付けて保管してください。

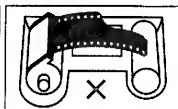
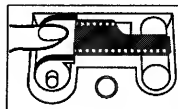
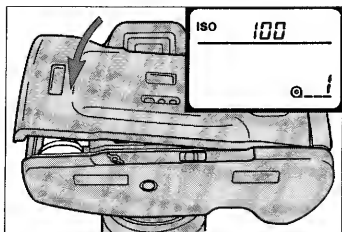
フイルムの入れ方

始めてカメラをご使用になるときは、フイルムを入れる前に、裏ぶたの内側にある保護シートを取り外してください。

1

裏ぶた開放レバーを押し下げて裏ぶたを開けます。

2

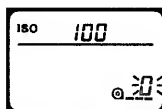
フイルムを図のように入れます。

3

フイルムの先端を赤いマークの範囲内に合わせます

- フイルムが浮き上がらないようにパトローネ（フイルム容器）を押さえてください。

4

裏ぶたを閉じ、メインスイッチをONにします。

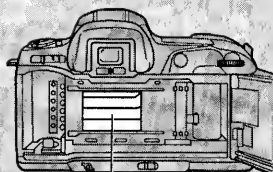
● フイルムが自動的に巻き上げられ、フイルムカウンターに"1"が表示されます。

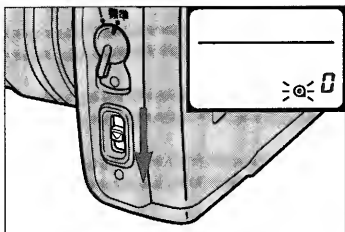
● DXコード付きのフイルムを入れた場合、フイルム感度が自動的にセットされ、ボディ表示部に表示されます。

● フイルムが正しく送られていない場合、フイルムカウンターは0のまま点滅します。このようなときは、もう一度フイルムを入れ直してください。

注意

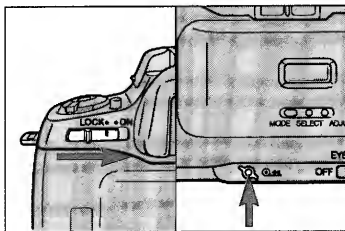
●シャッター幕は、非常に薄く精巧に作られています。手やフイルムの先が絶対に触れないように注意してください。

● フイルムの出し入れは、直射日光を避けて行なってください。

● ポラロイドインスタントリバーサルフイルムは使用できません。

フイルムの出し方

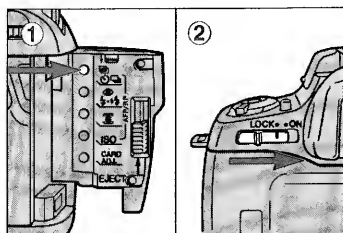
フイルムの最後のコマを撮影すると、自動的に巻き戻しが始まります。

フイルムが終了すると自動的に巻き戻しが始まります。フイルムカウンターが“0”になり、◎が点滅したら、裏ぶたを開けて、フイルムを取り出します。

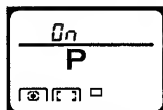
- 巻き戻し途中で、ボディ後側の途中巻き戻しボタンを硬貨などで押すと、巻き戻しにかかる時間を短くできます(巻き戻しの音は多少大きくなります)。

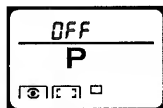
<フイルムを最後のコマまで撮影せずに途中で取り出したいとき>

メインスイッチをONにして、ボディ後側の途中巻き戻しボタンを硬貨などで押します。

- 巻き戻し途中で、もう一度途中巻き戻しボタンを硬貨などで押すと、巻き戻しにかかる時間を短くできます(巻き戻しの音は多少大きくなります)。

<最初の1コマまでの巻き上げ・巻き戻しを速くしたいとき>

このカメラは、最初の1コマまでフイルムを巻き上げる音や、巻き戻しの音を小さくしています。これらの音を気にする必要がない場合以下の操作をすれば、音は多少大きくなりますが、最初の1コマまでの巻き上げ・巻き戻しを速くできます。

カードホルダー内のセルフタイマー／巻き上げモードボタンを押しながら①、メインスイッチをLOCKからONにします②。

● ボディ表示部に“On”と表示され、最初の1コマまでの巻き上げ・巻き戻しを速くする状態になったことを示します。

● 再度同じ操作をすると“OFF”と表示され、最初の状態(音を小さくする)になります。

OFF
P

※このカメラは、使用中のフイルムの残り枚数が9枚以下になると、ファインダー内にその残り枚数を表示します。

250　5.6　9

残り枚数

● 1枚撮影するごとに、数字が1つずつ減っていきます。
● DXコードの付いていないフイルム、またDXコードがあってもフイルム枚数情報をもっていないフイルムを使用しているときは、残り枚数は表示されません。

カメラの構え方

カメラが少しでも動くとぶれた写真になりますので、しっかりと構えて撮影してください。

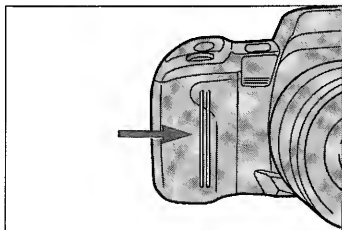
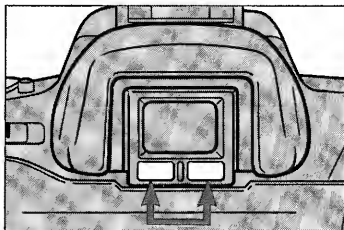
横位置　　縦位置

- 片目をカメラのファインダーにぴったりつけます。
- 脇をしめます。
- 左手でレンズの下側を持って支えます。
- 片足を軽く踏み出し、上半身を安定させます。壁にもたれたり、机などに肘をついたりしても効果があります。
- 暗い場所でフラッシュなしで撮影する場合(シャッター速度が遅くなる)や、望遠レンズを使う場合は、手ぶれが起こりやすくなります(手ぶれしやすいときには、ファインダー内の が点滅してお知らせします)。このような場合は三脚を使って撮影してください。
- 別売の縦位置コントロールグリップVC-700やホールディングストラップHS-700を使用すれば、カメラのホールディング(保持)をより確かなものにすることができます。

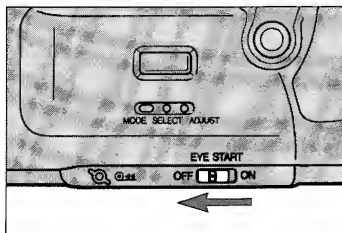
アイスタート(カメラを構えるだけで撮影準備が完了します)

このカメラは、カメラを構えるだけでピント合わせや露出(絞り値とシャッター速度)の決定など全ての撮影準備が整います。これをアイスタートと呼んでいます。

カメラは、グリップセンサーとファインダーの下にあるアイセンサーでカメラを構えていることを検知しています。

グリップセンサー

アイセンサー

● カメラを三脚に取り付けているときなどグリップから指が離れているときは、アイスタートは働きません。また、手袋をしているときは、グリップセンサーにさわっていてもアイスタートは働きません。このような場合は、シャッターボタンを半押し*してください。

●カスタムカードXiを使うと、グリップセンサーにさわらなくてもアイスタートを働かせることができます。

<アイスタートを働かせないようにするには>

ボディ裏側のアイスタートスイッチをOFFにします。

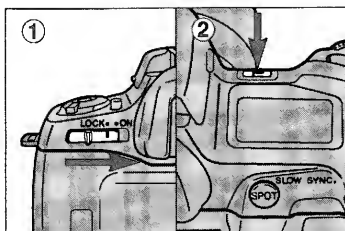
● この場合、シャッターボタンを半押し*すると、カメラはピントを合わせ、露出(絞り値とシャッター速度)を決定します。

● アイスタートスイッチがOFFでも、フォーカスフレームはカメラを構えると表示されます。

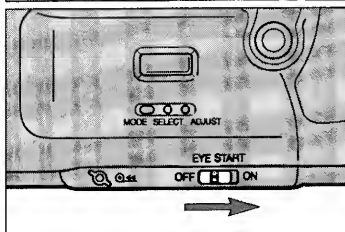
*シャッターボタンを軽く押すと、途中で少し止まるところがあります。この使用説明書では、ここまで押すことを「半押し」と呼んでいます。

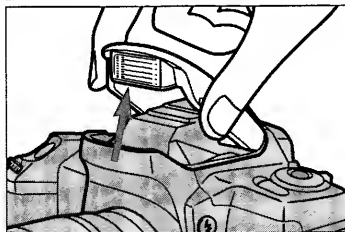
全自動で撮影しましょう

撮影したいものにカメラを向けて、シャッターボタンを押すだけで写真が撮れます。

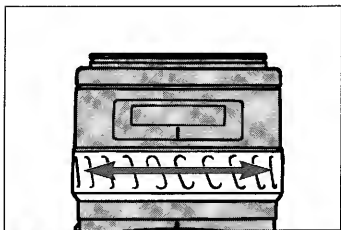
1

メインスイッチをONにし①、プログラムセットボタンを押します②。

- プログラムセットボタンを押すと、カメラは全自動の状態になります(21ページ参照)。
- パノラマ撮影をする場合は、パノラマ切り替えレバーをパノラマ側に切り替えてください(71ページ参照)。

2

アイスタートスイッチをONにします。

3

内蔵フラッシュを持ち上げます。

- 内蔵フラッシュが上がっていると、フラッシュが必要なときは自動的にフラッシュ撮影になります。

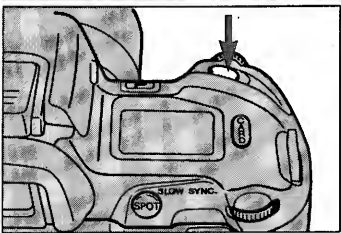
4

ズームレンズを使っているときは、撮影したいものが希望の大きさになるようにズームリングを回します。

● AFズームXiレンズをご使用の場合は、レンズのAZ／MZスイッチをAZにしてください。

5

ピントを合わせたいものが［ ］に入るようにカメラを構えます。

● 自動的にピントが合います。

6

シャッターボタンを押し込んで撮影します。

● 撮影後、フイルムは自動的に次のコマに巻き上げられます。

● フイルムの最後のコマを撮影すると、自動的に巻き戻されます。

<フォーカス表示 (●) について>

カメラを構えると、ファインダー内のフォーカス表示(●)が以下のようにピントの状態をお知らせします。

(●) 250 5.6

(●) 点灯： 被写体にピントが合っています。

● 点灯： ピントが固定されています(シャッターボタン半押し後で被写体が止まっている場合)。

( ) 点灯： ピント合わせの途中です(シャッターは切れません)。

● 点滅： ピントが合いません(シャッターは切れません。76ページ参照)。

プログラムセットボタンの機能

プログラムセットボタンを押すと、カメラはもっとも基本的な状態（全自動）になります。

状態が変わるもの	ボタンを押した後の状態	参照ページ
撮影モード	P（プログラム）モード	33,34
ピント合わせ	オートフォーカス	27,75
フォーカスフレーム	ワイドフォーカスフレーム	27,28,29
測光方式	14分割ハニカムパターン測光	42,43,44
露出補正値	±0	45,46,47
フラッシュ光量補正値	±0	61
巻き上げ	1コマ巻き上げ	82
セルフタイマー	（作動前/作動中にかかわらず）解除	82
内蔵フラッシュ（上がっている場合のみ）	必要なときに自動発光	52,53
専用フラッシュ（取り付けている場合のみ）	必要なときに自動発光	88
ワイヤレスフラッシュ設定	解除	62〜67
オートフォーカス優先 または レリーズ優先	オートフォーカス優先	77

以下の設定はプログラムセットボタンを押しても変更されません。

- 内蔵フラッシュの赤目現象軽減のためのプリ発光の有無（56ページ参照）
- フイルム感度（78ページ参照）

※プログラムセットボタンの機能とは別に、撮影者の撮影目的や撮影意図に応じたカメラの状態を、カメラに登録することができます。詳しくはこの使用説明書の69ページをご覧ください。

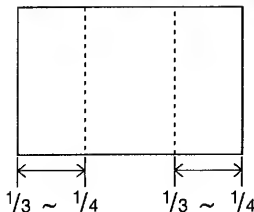
※別売のカスタムカードXiを使うと、プログラムセットボタンを押した後の状態を変えることができます（撮影モード、フォーカスフレーム、測光方式、露出補正値のみ）。詳しくはカスタムカードXiの使用説明書をご覧ください。

構図に変化をつけてみましょう

この章では、構図についての基本的な考え方を説明しています。また、構図によっては写したいものが画面中央にない場合もあります。そんなときにオートフォーカスで写したいものにピントを合わせるためのフォーカスロック（ピントの固定）の方法、あるいは、ファインダー内のある特定の場所でピントを合わせるための、ローカルフォーカスフレームの選び方について説明しています。

構図を工夫してみましょう

写真全体のバランスを考えてみましょう

たとえば写真①のように、人と滝の両方を正面から写すことができないとき、人を画面中央に配置するとバランスの悪い写真になってしまいます。このような場合は、人と滝をバランス良く配置する工夫が必要です。
写真②は、人と滝を画面を横に1/3に分割する位置に配置し、バランスを良くしたものです。このように、バランスを良くするために被写体を画面中央からずらす場合は、図のように画面の端から1/3～1/4のところに配置するのが目安です。

縦位置でも撮ってみましょう

カメラはその構造から、普通に構えると横位置になるため、横位置での写真が多くなりがちです。横位置ではやや中途半端な構図になるシーンでも、縦位置で撮ると全体のバランスがよくなることがあります。写真③④は、記念碑の前で、人物がほぼ同じ大きさになるように撮影したものです。このように高さのあるものを背景にして記念写真を撮るとき、人物をある程度大きく写そうとすると、横位置では背景が途中でとぎれてしまうことがあります（写真③）。縦位置では、人物と背景の記念碑両方を画面内にバランスよくおさめることができます（写真④）。

一般に横の画面は、広大な草原や海、どっしりとした建物などを雄大に撮る場合など、空間の広がりや安定感を表現するのに適しています。縦の画面は、高層ビルや高い建物、深い渓谷など高さや奥行きを表現するのに適しています。強調したいものに応じて横位置／縦位置を使い分けると、写真の表現の幅がぐっと広がります。

被写体が画面中央にないときのピント合わせ(フォーカスロック撮影)

被写体を画面中央から離すと、フォーカスフレームが被写体に重ならない場合があります。このような場合は、次のようにしてピントを固定して撮影してください。

AFボタンを使う方法

1

ピントを合わせたいものにフォーカスフレーム〔 〕を合わせ、AFボタンを押します。

● ファインダー内のフォーカス表示 (◉) が ● に変わり、ピントが固定されます。

また、ピントを合わせた位置のローカルフォーカスフレームが表示されます(27、28ページ参照)。

● シャッター速度と絞り値の確認は、シャッターボタンを半押ししてください。

2

AFボタンを押したまま、撮りたい構図にして撮影します。

● 撮影後、AFボタンから指を離すとフォーカスロックは解除されます。シャッターを切った後もAFボタンを押し続けていると、フォーカスロックは解除されませんので、同じピント位置での撮影が続けられます。

● 14分割ハニカムパターン測光時(42ページ参照)には、ピントと同時に露出も固定されますので、AFボタンを押したまま同じピント位置で続けて撮影する場合、被写体の明るさが変わると適正露出が得られないことがあります。

● フォーカス表示の ● が点灯しないとき(被写体にコントラストがないときなど)は、フォーカスロックはできません。

● AFボタンと前ダイヤルの操作で、ローカルフォーカスフレームに切り替えたり、ローカルフォーカスフレームからワイドフォーカスフレームにもどしたりすることができます(27ページ参照)。

シャッターボタンを使う方法

1

ピントを合わせたいものにフォーカスフレーム[ ]を合わせ、シャッターボタンを半押しします。

● ファインダー内のフォーカス表示 (◉) が ● に変わり、ピントが固定されます。

(◉) 250 5.6
● 250 5.6

2

シャッターボタンを半押ししたまま、撮りたい構図にして撮影します。

● 撮影後、シャッターボタンから指を離すとフォーカスロックは解除されます。シャッターを切った後も指を離さずにそのまま半押し状態に戻すと、フォーカスロックは解除されませんので、同じピント位置での撮影が続けられます。

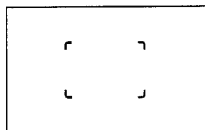
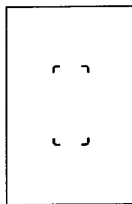
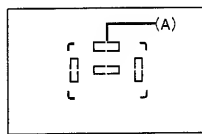
● 14分割ハニカムパターン測光時（42ページ参照）には、ピントと同時に露出も固定されますので、シャッターボタン半押しのまま同じピント位置で続けて撮影する場合、被写体の明るさが変わると適正露出が得られないことがあります。

● フォーカス表示の ● が点灯しないとき（被写体が動いているときなど）は、フォーカスロックはできません。

AFズームXiレンズ使用時は、ズームリングを手前に引くことによってピントを固定することができます。また、フォーカスホールドボタンの付いたαレンズの場合、フォーカスホールドボタンを押すと同様にピントが固定されます。

詳しくはレンズの使用説明書をご覧ください。

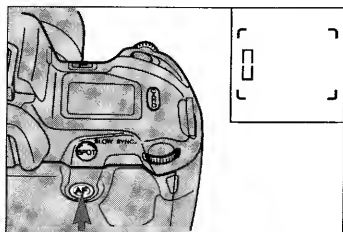
フォーカスフレーム

ピント合わせのできる範囲は、ファインダー内にワイドフォーカスフレームで表示されます。このワイドフォーカスフレームは、アイスタートスイッチがONのときは、カメラが今縦位置なのか横位置なのかに応じて自動で切り替わります(カメラ横位置のときは図1、縦位置のときは図2)。アイスタートスイッチがOFFのときは、シャッターボタンを半押しすると切り替わります。
ワイドフォーカスフレーム内には、被写体までの距離を測るセンサーが4つあります(図3)。狭い範囲でピント合わせをしたいときは、これらの内1つを選ぶことができます(ローカルフォーカスフレームと呼びます)。このうち(A)のセンサーはカメラ横位置で人物撮影するとき、顔にピントを合わせるために使います。縦位置では使いません。パノラマ撮影のとき(パノラマ切り替えレバーをパノラマ側にしているとき)のフォーカスフレームは、縦位置と同じ表示が表われます。

＜AFボタン＞

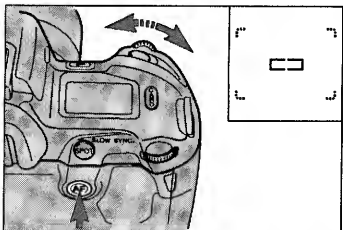
このカメラは、フォーカスフレームに関する操作はすべてAFボタンと前ダイヤルで行なうことができます。

- ワイドフォーカスフレームのときAFボタンを押すと、ピント合わせに用いたセンサー位置のローカルフォーカスフレームが表示され、ピントが固定されます。そのため、カメラがどのセンサーでピントを合わせたかを容易に確認することができます。カメラの判断したピント合わせが自分の意図通りであれば、そのままシャッターボタンを押し込んで撮影してください。
- カメラの判断が自分の意図と違うときは、AFボタンを押しながら前ダイヤルを回して、希望のセンサー位置のローカルフォーカスフレームに素早く切り替えることができます。ローカルフォーカスフレームを切り替える毎に、そのフレーム位置でピントを合わせ直して固定します。
- ワイドフォーカスフレームに戻したいときは、AFボタンを押し直し、ダイヤルを1回回すだけで素早く戻すことができます。

ローカルフォーカスフレームへの切り替え

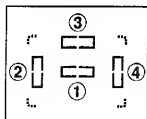
ワイドフォーカスフレームのとき、4つのローカルフォーカスフレームのいずれか1つを選ぶことができます。

AFボタンを押します。

- 4つのAFセンサーのうち、ピントを合わせたセンサー位置のローカルフォーカスフレームが表示され、ピントが固定(フォーカスロック)されます。
- ピントが合わなかったときは固定されません。ピントを合わせたセンサー位置のローカルフォーカスフレームも表示されません。

2

AFボタンを押したまま、前ダイヤルを ←…… 、——→ どちらかへ1回回すと、中央のローカルフォーカスフレームが表れます。

- 中央のローカルフォーカスフレーム部分で、カメラが自動的にピントを合わせ直し、そのピントを固定します。そのままシャッターボタンを押し込んで撮影できます。

3

続けてAFボタンを押したまま前ダイヤルを回して、希望のローカルフォーカスフレームを選びます。

- 前ダイヤルを ——→ へ1回回すたびに、ローカルフォーカスフレームが①→②→③→④→①→②→……の順で変わります。
- 前ダイヤルを ←…… へ1回回すたびに、ローカルフォーカスフレームが①→④→③→②→①→④→……の順で変わります。
- ローカルフォーカスフレームが変わるたびに、画面内のそのフレーム部分で、カメラが自動的にピントを合わせ直し、そのピントを固定します。そのままシャッターボタンを押し込んで撮影できます。

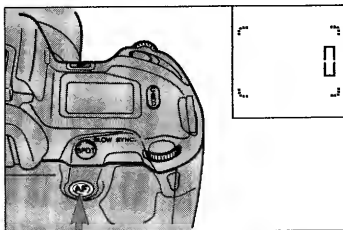
4

AFボタンを離します。

- 3の操作で選んだローカルフォーカスフレームで固定されます。

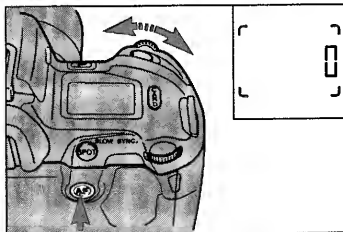
ワイドフォーカスフレームへの切り替え

以下のようにして、ローカルフォーカスフレームからワイドフォーカスフレームに切り替えます。

1

AFボタンを押します。

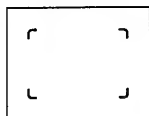
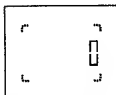
●画面内のローカルフォーカスフレーム部分でピント合わせを行なった後、ピントが固定されます。

●ピントが合わなかったときは固定されません。

2

AFボタンを押したまま、前ダイヤルを←、→どちらかへ1回回すと、ワイドフォーカスフレームが表れます。

●4つのAFセンサーのうち、ピントを合わせたセンサー位置のローカルフォーカスフレームが表示されます。

3

AFボタンを離します。

●ワイドフォーカスフレームにもどると、ローカルフォーカスフレームは消えます。

●この表示は、ローカルフォーカスフレームの位置を分かりやすくするため、ワイドフォーカスフレームを点線で示したものです。実際には、特に注記していないかぎり、ローカルフォーカスフレームとワイドフォーカスフレームが同時に表示されることはありません。

●AFレフレックス500㎜／F8およびAFパワーズーム35−80㎜／F4-5.6を使用しているときは、中央のローカルフォーカスフレームのみ使用できます。

●カスタムカードXiでフォーカスホールドボタンの機能をコンティニュアスAFに変更し、フォーカスホールドボタンを押している場合や、装着すると自動的にコンティニュアスAFとなるカードを使用している場合でも、AFボタンを押している間はコンティニュアスAFが解除されます(ピント合わせをした後ピントが固定されます)。

絞りやシャッター速度を変えて、写真の描写を変えてみましょう

絞りやシャッター速度を変えることで写真の描写を変えることは、コンパクトカメラにはない、一眼レフの大きな特徴です。この章では、撮影者の希望する絞り値やシャッター速度で写真を撮る方法について説明しています。また、意図通りに撮影される方のために、露出補正や測光インジケーターなどの機能についても説明しています。

描写を変えてみましょう

一眼レフカメラは、シャッター速度や絞り値を変えることで、動いているものをくっきり写す／尾を引くように写す、また、背景をぼかす／背景までシャープに写すなど、写真の描写を変えることができます。

動いているものの描写

①

②

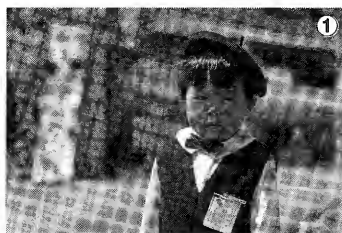
写真①は、走っている子供の真剣な表情がよくわかります。写真②は子供がいかにも速く走っているという情景がよくわかります。
このように動いている人やものの描写は、シャッター速度で変わります。シャッター速度が速いほど動くものは止まって写り、遅いほど流れるように写ります。

背景の描写

①

②

③

④

写真①は、背景がぼけているので、どこで写したものか良くわかりません。
写真②は背景までピントが合い、どこで写したかが良くわかります。
逆に写真③では、背景をぼかすことで、子供の豊かな表情がより強調されています。写真④は写真③と比べると背景が雑然としているため、一番表現したい子供の表情が強調されません。
このように背景の描写は、絞り値で変わります。絞り値が大きいほど背景までピントが合い(ピントの合う範囲は広く)、小さいほど背景がぼけます(ピントの合う範囲が狭くなります)。

撮影モード

前述のように、同じシーンでもシャッター速度や絞りを変えると写真の描写が変わります。撮影モードを変えることで、シャッター速度と絞り値のどちらか一方、あるいは両方を自分で決めることができます。このカメラには以下の4つの撮影モードがあります。

P(プログラム)モード(35ページ参照)

撮影シーンに適した絞りとシャッター速度が自動的に決まります。シャッターチャンスに専念することができ、スナップ写真などの一般撮影に最適です。
また、前後のダイヤルを回すと、Pモードのまま一時的に絞りやシャッター速度を任意に選ぶことができる、イメージシフト(PAシフトまたはPsシフト)になります(35、36ページ参照)。

A(絞り優先)モード(37ページ参照)

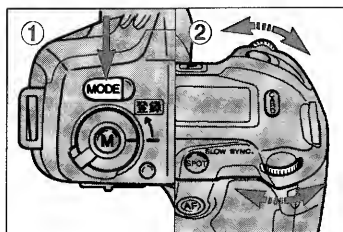
撮影者が希望の絞り値を決めることができます。カメラが自動的にシャッター速度を決めます。
ポートレート撮影など、絞りの効果を生かして背景のボケ具合をコントロールしたいときに使います。

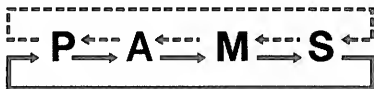
S(シャッター速度優先)モード(38ページ参照)

撮影者が希望のシャッター速度を決めることができます。カメラが自動的に絞りを決めます。
スポーツ撮影など、シャッター速度の効果を生かして動くものを止めて表現したり、逆に流動感を表現したいときに使います。

M(マニュアル)モード(39ページ参照)

撮影者が絞り値とシャッター速度の両方を決めます。
絞りとシャッター速度の両方を固定したままで撮影したいときや、フラッシュメーターなど単体の露出計で測った値で撮影するときに使います。

撮影モードの選び方

モードボタンを押しながら①、前ダイヤルまたは後ダイヤルを回して希望する撮影モードをボディ表示部に表示させ②、モードボタンを離します。

●モードは以下のように変わります。

●登録機能を使えば、4つの撮影モードのうちいずれか1つをカメラに憶えさせ、ワンタッチで呼び出すことができます(69ページ参照)。

P(プログラム)モード撮影

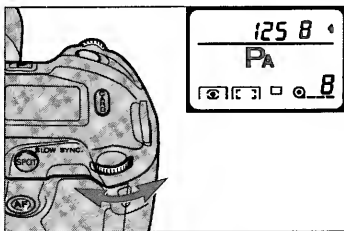
1 Pモードを選びます。

- 撮影モードだけをPモードにするには、34ページの操作をします。
- Pモードを含め全自動の状態(21ページ参照)にするときは、プログラムセットボタンを押します。

2 構図を決めて撮影します。

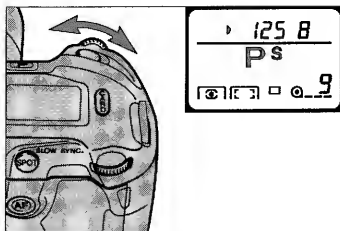
- 内蔵フラッシュが下がっているとき、写すものが暗くてシャッター速度が遅くなる場合は、ファインダー内の が点滅します。手ぶれしやすいので、三脚を用いるなどカメラがぶれないように気を付けてください。

イメージシフト(PAシフト、PSシフト)

Pモードのまま一時的に絞りやシャッター速度を任意に選んで撮影することができます。

PAシフト

Aモード(絞り優先モード)的な使い方ができます。

ファインダー表示を見ながら、後ダイヤルを回して希望の絞り値を選びます。

- シャッター速度は自動的に決まります。
- PAシフトで選んだ絞り値は、写したいものの明るさが変わっても、そのまま保持されます。

Psシフト

Sモード(シャッター速度優先モード)的な使い方ができます。

ファインダー表示を見ながら、前ダイヤルを回して希望のシャッター速度を選びます。

- 絞り値は自動的に決まります。
- Psシフトで選んだシャッター速度は、写したいものの明るさが変わっても、そのまま保持されます。

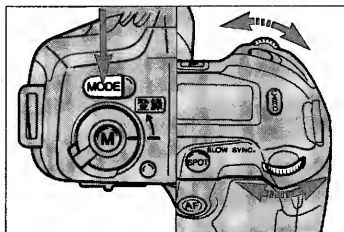
- PAシフト、Psシフトにするときは、ファインダーを覗いて絞り値とシャッター速度が表示されているときにダイヤルを回してください。
- PAシフト、Psシフト中はフラッシュは使用できません。また、フラッシュが発光するとき(ファインダー内に⚡が点灯するとき)は、PAシフト/Psシフトに切り替わりません。
- 表示部の絞り値またはシャッター速度が点滅している場合は、適正露出が得られません。点滅しなくなるまでダイヤルを回してください(86ページ参照)

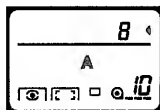
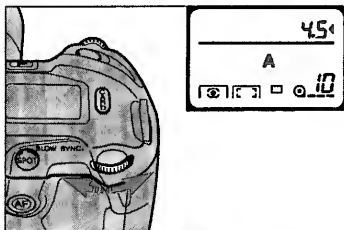
<PAシフト、Psシフトの解除>

PAシフト、Psシフトを解除するときは、モードボタンを押してください。もとのPモードになります。

- メインスイッチをLOCKにしたときや、ファインダーから目を離し、表示部から絞り値またはシャッター速度の表示が消えてから4秒たったときもPAシフト、Psシフトは解除され、もとのPモードになります。

A(絞り優先)モード撮影

小さい絞り値にすると背景をぼかした美しいポートレートが、大きい絞り値にすると奥行きのある風景など背景までピントの合った写真が撮れます。

1 撮影モードをAモードにします(34ページ参照)。

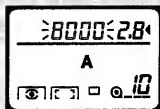
●ボディ表示部の絞り値の横の◀が点灯し、絞り値が変更できることを示します。

2 後ダイヤルを回して、希望の絞り値を選びます。

●——→ へ回すと絞り値が大きくなります。

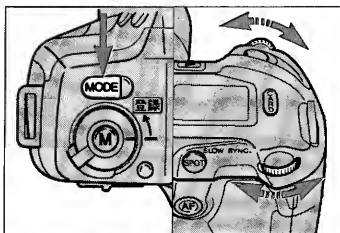
●←…… へ回すと絞り値が小さくなります。

3 構図を決めて撮影します。

●表示部のシャッター速度が点滅している場合は、適正露出が得られません。点滅しなくなるまで絞り値を変更してください(86ページ参照)。

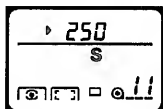
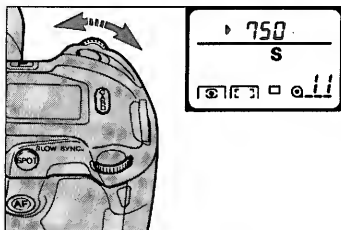
●内蔵フラッシュが下がっているとき、写すものが暗くてシャッター速度が遅くなる場合は、ファインダー内の が点滅します。手ぶれしやすいので、三脚を用いるなどカメラがぶれないように気を付けてください。

S(シャッター速度優先)モード撮影

速いシャッター速度にすると、動いている被写体をシャープに写し止めることができ、遅いシャッター速度にすると、被写体を流れるように表現することができます。

1

撮影モードをSモードにします
(34ページ参照)。

- ボディ表示部のシャッター速度の横の▶が点灯し、シャッター速度が変更できることを示します。

▸250
S

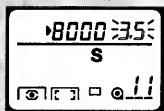
2

前ダイヤルを回して、希望のシャッター速度を選びます。

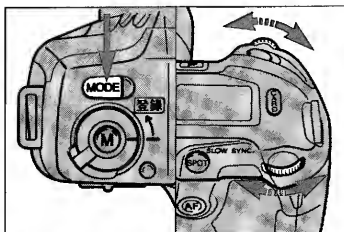
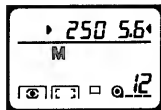
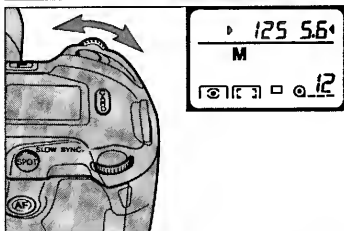
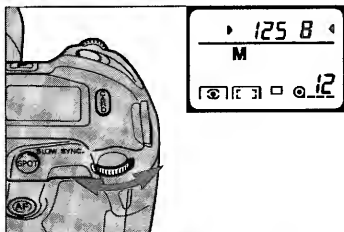
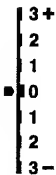
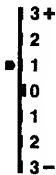
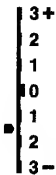
- ——▶ へ回すとシャッター速度が速くなります。
- ◀····· へ回すとシャッター速度が遅くなります。

3

構図を決めて撮影します。

- 表示部の絞り値が点滅している場合は、適正露出が得られません。点滅しなくなるまでシャッター速度を変更してください(86ページ参照)。

▸8000 3.5
S

M(マニュアル)モード撮影

撮影者の思い通りに露出をコントロールすることができます。カメラが測光した値との差が、測光インジケーター上に表示されます。

1 撮影モードをMモードにします(34ページ参照)。

2 前ダイヤルを回して、希望のシャッター速度を選びます。

3 後ダイヤルを回して、希望の絞り値を選びます。

4 構図を決めて撮影します。

Mモードでは、ファインダー内の測光インジケーターが、撮影者が設定した絞り値とシャッター速度による露出値と、各測光方式に基づいてカメラが測光した値との差をお知らせします(メータードマニュアル)。

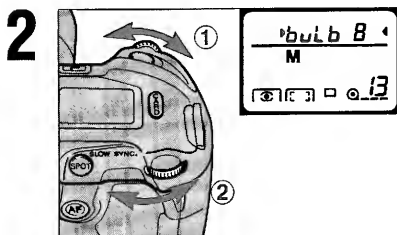
	適正露出です	露出オーバーになります（＋1段）	露出アンダーになります（ー1.5段）
測光インジケーター	3+ 2 1 ▶0 1 2 3−	3+ 2 ▶1 0 1 2 3−	3+ 2 1 0 1 ▶(1と2の間) 2 3−
ファインダー表示部	250 5.6	180 ⊞ 4.5	500 ⊟ 6.7

●露出の差が±3.5段以上になった場合は、3＋ または 3ー のところで ▶ が点滅します。

バルブ(長時間露光)撮影

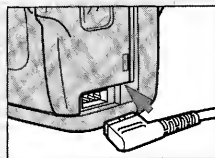
シャッターボタンを押している間、シャッターは開いたままになります。打ち上げ花火の撮影など、長時間の露光が必要なときに使用します。

1 撮影モードをMモードにします。

2

前ダイヤルを回して“bulb”を選び①、後ダイヤルを回して希望の絞り値を選びます②。

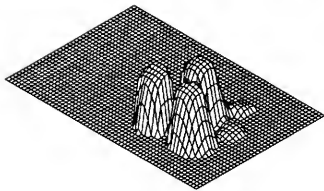
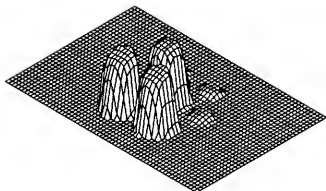
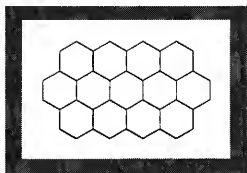
3 シャッターボタンを押し込みます。必要とする露光時間中押し続けてください。

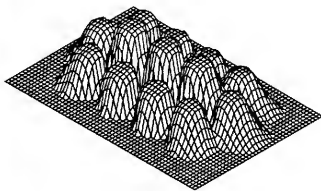
- シャッターボタンから指を離すと、シャッターが閉じ、撮影が終了します。

- バルブ撮影のときは、カメラを三脚に取り付けて撮影することをおすすめします。また、リモートレリーズターミナルにリモートコードRC-1000S/L(別売)を取り付ければ、カメラぶれの防止に役立つとともに、シャッターボタンを押した状態で固定できます。カードホルダーを開け、リモートレリーズターミナルのカバーをはずしてお使いください。
- アイピースキャップを取り付けると、ファインダーから光が入るのを防ぐことができます(10ページ参照)。

測光方式

このカメラでは、撮影目的や光線の状態によって3つの測光方式を選ぶことができます。

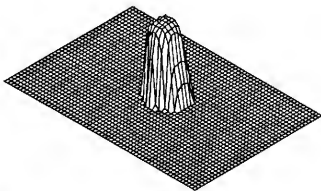
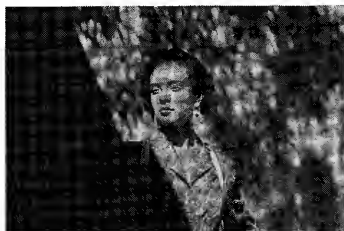
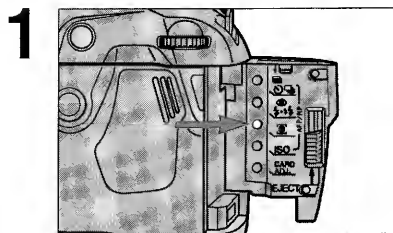
14分割ハニカムパターン測光(◎)

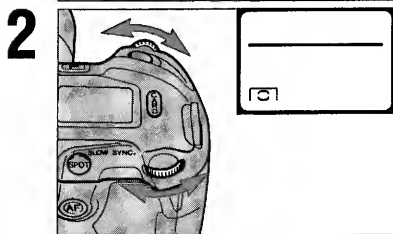
画面全体を14分割した多分割測光を行ないます。画面内には13個のハニカム(ハチの巣)形状の測光素子と、その周囲との合計14個の測光素子が配置されています。これらの素子はオートフォーカスと連動しているので、画面内のどこに被写体があってもカメラがその位置と明るさを的確に判断し、露出を決定します。目で見た感じに一番近く撮れる測光方式で、逆光撮影を含む一般撮影に適しています。

中央重点的平均測光(⊡)

画面の中央部を重点的に、画面全体の明るさを平均測光します。逆光のときや被写体が画面中央にない場合などは、露出補正(45ページ参照)が必要となります。

スポット測光(⊡)

画面中央部のスポット測光フレーム内のみを測光します。コントラスト(明暗差)の大きい被写体や、画面のある特定の部分だけを測光するのに適しています。測光したい部分が画面中央にないときは、AEロック撮影(48ページ参照)を行なってください。

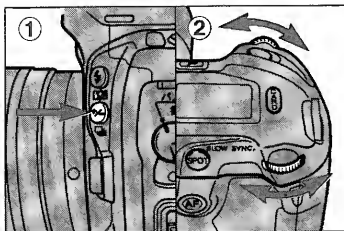
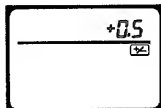
測光方式の選び方

1

カードホルダーを開けて測光方式選択ボタンを押します。

2

前または後ダイヤルを回して希望の測光方式のマークをボディ表示部に表示させ、シャッターボタンを半押しします。

- 登録機能を使えば、3つの測光方式のうちいずれか1つをカメラに憶えさせ、ワンタッチで呼び出すことができます(69ページ参照)。

露出補正

撮影目的や光線状態によって、意図的に露出を補正して撮影することができます。

露出補正ボタンを押したまま①、前または後ダイヤルを回して希望の補正値を設定します②。設定が終われば露出補正ボタンを離します。

- −3.0から+3.0まで、0.5段ごとに設定できます。
- 設定後は、ボディ表示部に[+/−]が、ファインダー内に[+]または[−]が表示され、露出補正中であることをお知らせします。
- 露出補正を解除する場合は、上記と同じ操作で露出補正値を0.0にしてください。
- 登録機能を使えば、設定した露出補正値をカメラに憶えさせ、ワンタッチで呼び出すことができます(69ページ参照)。

露出補正時の測光インジケーター(P、A、Sモード時のみ)

＜14分割ハニカムパターン測光の場合＞

露出補正ボタンを押すと、ファインダー内に測光インジケーターが表示されます。
測光インジケーターは、中央重点的平均測光での露出値を基準(0)にして、14分割ハニカムパターン測光による露出値を表示します。従来の中央重点的平均測光に馴れておられる方に、14分割ハニカムパターン測光ではこのシーンをどのように判断しているのかをお知らせします。意図的に露出補正する場合の参考にご利用ください。

3+
2
1
0
1
2
3−

- 左の例では、中央重点的平均測光での露出に対して、14分割ハニカムパターン測光は1.5段オーバーの制御になっていることを表しています。

3+
2
1
0
1
2
3−

- 上の状態でダイヤルを回して露出補正値を設定すると、指標(■)も同時に移動します。
(例：0.5段オーバー側に露出補正をかけた場合)
- 左の例では、中央重点的平均測光での露出に対して、14分割ハニカムパターン測光は2段オーバーの制御になっていることを表しています。

＜中央重点的平均測光、スポット測光の場合＞

露出補正ボタンを押すとファインダー内に測光インジケーターが表示され、0の位置に指標(■)が点灯します。
露出補正値を設定すると、測光インジケータにはその設定した値が表示されます。

3+
2
1
0
1
2
3−

●露出補正ボタンを押すと測光インジケーターが表示され、0の位置に指標(■)が点灯します。

3+
2
1
0
1
2
3−

●上の状態でダイヤルを回して露出補正値を設定すると、その設定した値が表示されます。(例：1.5段アンダーに露出補正値を設定した場合)

●Mモード時は、露出補正ボタンを押している間は測光インジケーターは表示されません。
●フラッシュ撮影時(ファインダー内に ⚡ が点灯しているとき)は、測光インジケーターは表示されません。
●露出補正ボタンを押したままシャッターボタンを半押しすると、測光インジケーターはブラケット撮影のインジケーターになります(80ページ参照)。
●アイスタートスイッチがOFFで、表示部の絞り値またはシャッター速度が消えているときは露出補正ボタンを押しても指標(■)が表れません。このときは、シャッターボタンを一度半押しして離すと指標が表れます。

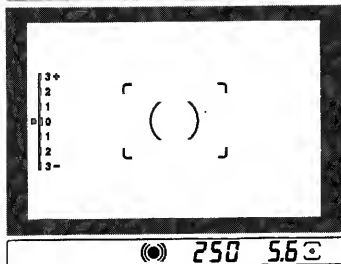
AEロック撮影(露出の固定)

スポットAELボタンを押すと測光方式がスポット測光に切り替わり、同時に露出が固定されます。測光したいものとピントを合わせたいものが異なる場合や、露出を一定にしたまま連続撮影する場合などに使用します。

1

測光したいものにピントを合わせます。

- スポット測光を使用している場合は、測光したいものにスポット測光フレームを合わせます。

2

スポットAELボタンを押します。

- 14分割ハニカムパターン測光、中央重点的平均測光を使用している場合は、測光方式がスポット測光に切り替わり、スポット測光フレームが表れます。同時に、スポット測光フレーム内の露出がロック(固定)されます。
- スポット測光を使用している場合は、スポット測光フレーム内の露出がロック(固定)されます。

3+
2
1
0
1
2
3-

- ファインダー内に測光インジケーターが表示され、ロック(固定)された露出が、インジケーターの基準位置(0)の横に■で表示されます。

3

スポットAELボタンを押したまま、写真の構図を変えます。

3+
2
1
0
1
2
3−

●2で固定された露出を基準(0)にして、構図を変えた後のスポット測光フレーム内の測光値がインジケーター横に ■ で表示されます。

4

スポットAELボタンを押したまま、ピントを合わせたい被写体にピントを合わせ直して、撮影します。

●露出は2のロック(固定)された値で制御されます。

●同じ露出で連続して撮影する場合は、スポットAELボタンを押し続けてください。

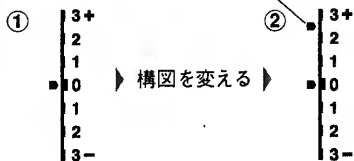
●AELとはAuto Exposure Lockの略で、自動で得られた露出をロック(固定)することを表します。

●フラッシュ撮影時(ファインダー内に ϟ が点灯しているとき)は、スポットAELボタンを押すと、AEロック撮影にはならず、スローシンクロ撮影になります(60ページ参照)。このとき、スポット測光フレーム、測光インジケーターは表示されません。

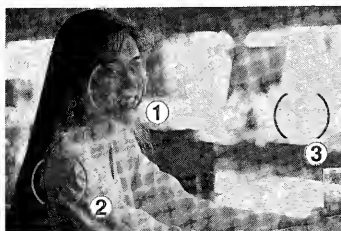
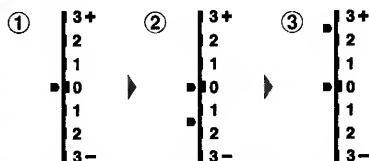
AEロック撮影時の測光インジケーター(P、A、Sモード時のみ)

スポットAELボタンを押している間、ファインダー内に測光インジケーターが表示されます。測光インジケータを使うと、画面内のある特定の部分(スポット測光フレーム内)の明るさの差を読み取ることができます。

(例1)①でスポットAELボタンを押して露出を固定、その後スポットAELボタンを押したまま②へ構図を変える。

構図を変えた後の測光値
(固定した露出との差)
背景のハイライト部分②は人物の顔①よりも、2.5段明るいことを意味します。

(例2)①でスポットAELボタンを押して露出を固定、その後スポットAELボタンを押したまま②、③へ構図を変える。

測光インジケーター

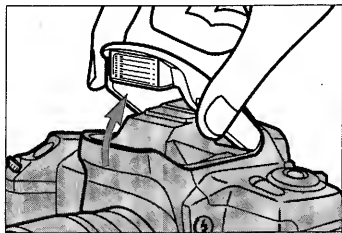
① 3+ 2 1 0 1 2 3−　② 3+ 2 1 0 1 2 3−　③ 3+ 2 1 0 1 2 3−

②の部分は①より1.5段暗く、③の部分は②より4段明るいことを意味します。

- 明るさの差が±3.5段以上になった場合、3+ または3− のところで■が点滅します。
- Mモード時にスポットAELボタンを押したときの測光インジケーターは、撮影者が設定した絞り値とシャッター速度による露出値と、スポット測光方式に基づいてカメラが測光した値との差を表示します(40ページ参照)。

フラッシュを使って撮影しましょう

このカメラにはフラッシュが内蔵されていますので、手軽にフラッシュ撮影を楽しむことができます。
また、逆光での人物を美しく撮ることができる日中シンクロ撮影や、夜景を背景にした人物撮影で、人物、夜景両方をきれいに写すことができるスローシンクロ撮影、といった高度な撮影も自動で行なえます。
別売のプログラムフラッシュを使えば、ハイスピードシンクロ撮影やワイヤレスフラッシュ撮影ができます。

内蔵フラッシュを使って撮影しましょう

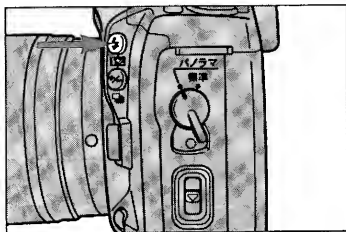
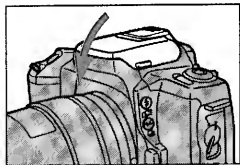
Pモードフラッシュ撮影

内蔵フラッシュが上がっていれば、フラッシュが必要なときは自動的にフラッシュ撮影になります。

- 内蔵フラッシュを持ち上げると、ボディ表示部に AUTO または AUTO が表示されます。フラッシュ撮影になるときは、ファインダー内に が点灯します。

- フラッシュの充電が完了すると、ファインダー内に または が点灯します。点灯してから撮影してください。
- フラッシュの光が届く範囲には限度があります。56ページの表を目安にして、フラッシュ光の届く範囲内で撮影してください。フラッシュ光が届いた場合、撮影後、ファインダー内の または が素早く点滅します。

＜フラッシュを必ず発光させるには＞

次のような場合には、フラッシュは自動的には発光しませんが、フラッシュを発光させて撮影するとより美しい写真が撮れます。

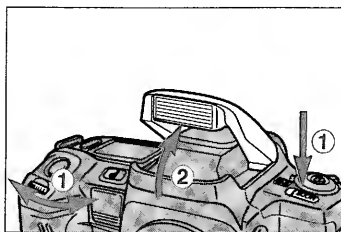
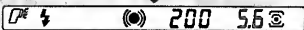
- 明るい屋外で、帽子などで顔に影ができている人物を撮影する。
- 曇の日に、屋外で人物を撮影する。
- 蛍光灯で照明されている、明るい室内で撮影する。

フラッシュ強制発光ボタンを押しながら撮影します。

内蔵フラッシュを押し下げるとフラッシュは発光しません。

フラッシュの使用が禁止されている美術館などでの撮影に便利です。夕景や夜景をきれいに撮ることもできます。

- ボディ表示部の AUTO または AUTO が消えます。

- 自動発光にもどすときは、フラッシュを持ち上げてください。
- 内蔵フラッシュが下がっているとき、フラッシュを発光させて撮影するとより美しい写真が撮れる、とカメラが判断した場合は、ファインダー内の が点滅します。内蔵フラッシュを持ち上げて、フラッシュ撮影されることをおすすめします。
- 写すものが暗くてシャッター速度が遅くなるときは、ファインダー内の が点滅します。手ぶれしやすいので、三脚を用いるなどカメラがぶれないように気を付けてください。

Aモードフラッシュ撮影

フラッシュが上がっていると、撮影のときフラッシュが必ず発光します。

Aモードを選んでから①、内蔵フラッシュを持ち上げます②。

●内蔵フラッシュを持ち上げると、ボディ表示部に または が表示されます。

●ファインダー内のマークについては、Pモードと同じです。

●シャッター速度は1／200秒以下の範囲で自動的に設定されます。絞り値はご使用のレンズの範囲内で自由に選べます。

注意

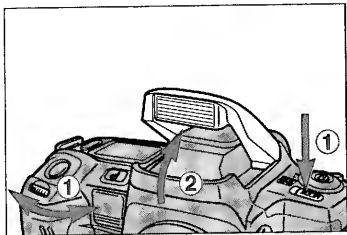
●ファインダー内のシャッター速度が点滅しているときは、そのまま撮影すると露出オーバーになります。点滅しなくなるまで後ダイヤルを回して、絞り値を大きくしてください。

●Aモードでは希望の絞り値を選べますが、大きい絞り値を選ぶほど内蔵フラッシュ光の届く距離は短くなります(たとえばF11だと、ISO100のフイルムで1.1メートル、ISO400のフイルムで2.2メートル)。遠くにあるものを大きい絞り値でフラッシュ撮影する場合は、大光量のプログラムフラッシュ(別売)をお使いください。

フラッシュが下がっていると発光しません。

●写すものが暗くてシャッター速度が遅くなるときは、ファインダー内の が点滅します。手ぶれしやすいので、三脚を用いるなどカメラがぶれないように気を付けてください。

Sモードフラッシュ撮影

フラッシュが上がっていると、撮影のときフラッシュが必ず発光します。

Sモードを選んでから①、内蔵フラッシュを持ち上げます②。

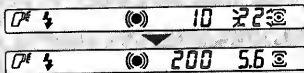
- 内蔵フラッシュを持ち上げると、ボディ表示部に◎または⚡が表示されます。
- ファインダー内のマークについては、Pモードと同じです。

- シャッター速度は1／200秒以下の範囲で自由に選べます。絞り値はご使用のレンズの範囲内で自動的に設定されます。

注意

- ファインダー内の絞り値が点滅しているときは、そのまま撮影すると露出オーバーになります。点滅しなくなるまで前ダイヤルを回して、速いシャッター速度に変更してください。

10　22
▼
200　5.6

- Sモードでは絞り値が自動で設定されますが、大きい絞り値が設定されるほど内蔵フラッシュ光の届く距離は短くなります(たとえばF11だと、ISO100のフイルムで1.1メートル、ISO400のフイルムで2.2メートル)。遠くにあるものを大きい絞り値でフラッシュ撮影する場合は、大光量のプログラムフラッシュ(別売)をお使いください。

フラッシュが下がっていると発光しません。

Mモードフラッシュ撮影

フラッシュが上がっていると、撮影のときフラッシュが必ず発光します。

Mモードを選んでから、内蔵フラッシュを持ち上げます。

- 内蔵フラッシュを持ち上げると、ボディ表示部に◎または⚡が表示されます。
- ファインダー内のマークについては、Pモードと同じです。
- シャッター速度は1／200秒以下の範囲で、絞り値はご使用のレンズの範囲内で自由に選べます。

フラッシュが下がっていると発光しません。

内蔵フラッシュ撮影の距離

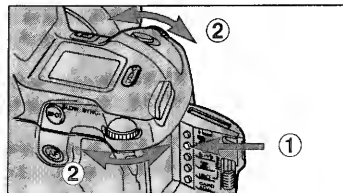
フラッシュの光が届く範囲は、レンズの焦点距離や絞り値、フイルム感度によって異なります。内蔵フラッシュでの撮影距離は以下の表を目安にしてください。

内蔵フラッシュの撮影距離(単位メートル)

フイルム感度 / 絞り値	ISO100	ISO400	ISO800	ISO1000
2.8	1.0—4.2	1.0—8.4	1.0—12.0	1.0—13.5
4	1.0—3.0	1.0—6.0	1.0—8.4	1.0—9.5
5.6	1.0—2.1	1.0—4.2	1.0—6.0	1.0—6.7
8	1.0—1.5	1.0—3.0	1.0—4.2	1.0—4.7
11	———	1.0—2.2	1.0—3.0	1.0—3.4

- お使いのレンズによっては、フラッシュの光がレンズにさえぎられることがあります。詳しくは93ページをご覧ください。
- フラッシュ撮影時はフイルム感度ISO25～1000のフイルムをお使いください。ISO1000より高感度のフイルムでフラッシュ撮影すると、適正露出が得られないことがあります。

目が赤く写るのを軽減するために(フラッシュプリ発光)

暗いところで人物を内蔵フラッシュで撮影すると、フラッシュの光が眼の中で反射して、まれに眼が赤く写ることがあります。内蔵フラッシュ撮影では、撮影の直前に小光量のフラッシュを発光させる(プリ発光)と、この現象を軽減することができます。

カードホルダーを開けてフラッシュモードボタンを押し①、指を離してから、前または後ダイヤルを回してボディ表示部に AUTO または を表示させ②、シャッターボタンを半押しします。

- 本発光の前に小光量の発光(プリ発光といいます)が行なわれます。
- プリ発光のないフラッシュ撮影にもどすには、同じ操作でボディ表示部に AUTO または を表示させます。
- 登録機能を使えば、赤目を軽減するプリ発光の有無をカメラに憶えさせ、ワンタッチで呼び出すことができます(69ページ参照)。

逆光での人物撮影(日中シンクロ撮影)

写したい人物に比べて背景が非常に明るい逆光などの場合、そのまま撮影すると背景が白くとんでしまいがちです。そのような場合、フラッシュ撮影をすると人物にフラッシュ光を補って明るさのバランスをとり、人物と背景の両方をきれいに写すことができます。

＜Pモードのとき＞

内蔵フラッシュが上がっていると、カメラが被写体の状況を判断して自動的に発光し、日中シンクロ撮影となります(このときファインダー内にPEが点灯します)。

- PEが点灯しないときに日中シンクロ撮影したい場合は、強制発光ボタンを押しながら撮影してください。
- 内蔵フラッシュが下がっているとき、日中シンクロ撮影するとより美しい写真が撮れる、とカメラが判断した場合は、ファインダー内のPEが点滅します。内蔵フラッシュを持ち上げて、フラッシュ撮影されることをおすすめします。

＜A、S、Mモードのとき＞

内蔵フラッシュが上がっていると、必ず発光します。

- Aモードでは、背景が非常に明るい場合や設定した絞り値によっては、露出オーバーになることがあります。この場合、ファインダー内のシャッター速度が点滅してお知らせします(54ページ参照)。
- Sモードでは、背景が非常に明るい場合や設定したシャッター速度によっては、露出オーバーになることがあります。この場合、ファインダー内の絞り値が点滅してお知らせします(55ページ参照)。

別売のプログラムフラッシュ5400HSを使うと同調速度より速いシャッター速度でフラッシュ撮影ができるようになります(ハイスピードシンクロ撮影)。そのため、従来の日中シンクロ撮影よりも絞りの効果を活かした、ポートレートらしい写真を撮ることができます。

一般のフラッシュ撮影時には、これ以上速いシャッター速度ではフラッシュ撮影できない、というシャッター速度の上限があります。これを同調速度といいます。このカメラでは、1／200秒というシャッター速度がそれに当たります。

プログラムフラッシュ5400HSをこのカメラに取り付けて、5400HSをハイスピードシンクロモードにします。すると、フラッシュ撮影で1／200秒より速いシャッター速度となったとき、このカメラは5400HSを、通常の一瞬で発光する閃光発光とは異なる発光(フラット発光といい、長時間フラッシュが発光し続けます)に制御します。

その結果従来に比べて、より高速のシャッター速度でフラッシュ撮影ができるようになります。

従来より高速のシャッターが使える分、絞りの選択幅が広がります。そのため、日中シンクロ撮影でも絞りを開けて背景をぼかし、人物が浮き上がって見えるポートレートらしい写真を撮ることができます。

従来の日中シンクロ撮影

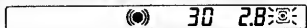
ハイスピードシンクロ撮影

またAモードで日中シンクロ撮影するとき、背景が非常に明るくて露出オーバーになるようなシーンでも、高速シャッターが使えるので、適正露出に描写することができます。

カメラの露出モード、5400HSのモードとフラッシュの発光形態は以下の通りです。

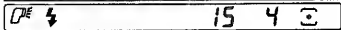
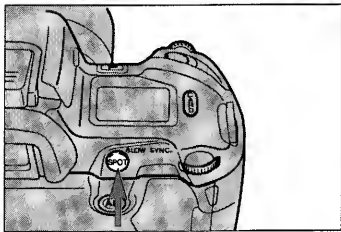
5400 HS		ハイスピードシンクロモードに設定	ハイスピードシンクロモードを解除
カメラの露出モード	P	自動露出で1/200秒より高速のシャッター速度に制御されたときは、フラット発光になります。(このときボディ表示部およびファインダー内に ⚡H が点灯します)	通常の閃光発光となり、シャッター速度は1／200秒以下の範囲で自動で設定されます。
	A	自動露出でシャッター速度が1／200秒以下に制御されたときは、通常の閃光発光になります。	
	S	1/200秒より高速のシャッター速度に設定するとフラット発光になります。(このときボディ表示部およびファインダー内に ⚡H が点灯します)	通常の閃光発光となり、シャッター速度は1／200秒以下の範囲で設定できます。
	M	シャッター速度を1／200秒以下に設定すると、通常の閃光発光になります。	

- フラット発光になるときは、通常のフラッシュ撮影よりも調光距離の範囲が短くなります。撮影前に、被写体がプログラムフラッシュ5400HSの液晶表示部に表示されている距離の範囲内にあるかどうか確認してください。
- 蛍光灯照明下、または、測光範囲外の警告表示が出るときは、適正露出が得られないことがありますので、1/200秒より高速のシャッター速度にはしないでください。

30　2.8

詳しい操作手順は、プログラムフラッシュ5400HSの使用説明書をご覧ください。

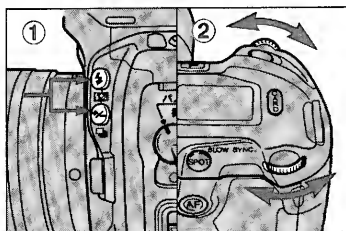
夜景を背景にした人物撮影(スローシンクロ撮影)

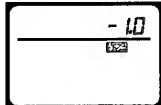
夜景を背景にして記念撮影する場合など、通常のフラッシュ撮影では手前の人物はきれいに写し出されますが、フラッシュの届かない背景は黒くつぶれてしまいます。このような場合は、スローシンクロ撮影(シャッター速度の遅いフラッシュ撮影)をすると、人物も背景もきれいに撮ることができます。

P、Aモードでは次のようにしてスローシンクロ撮影ができます。

ファインダー内にD≡が点灯しているとき、スポットAELボタンを押しながら撮影します。

- シャッター速度が遅くなりますので、三脚の使用をおすすめします。

フラッシュの光量を調節できます(フラッシュ光量補正)

フラッシュ撮影時に露出補正する場合、通常の露出補正では、フラッシュ光も定常光も含めた全体の露出レベルを補正するため、例えば人物撮影で人物をオーバー気味に露出補正すると、背景も露出オーバーになります。このカメラは、内蔵フラッシュまたは別売のプログラムフラッシュを使ってフラッシュ撮影する時、フラッシュの光の量だけを補正することができます。そのため、フラッシュ光の届かない(定常光だけで露光される)背景の露出を変えることなく、フラッシュ光が届く主被写体だけの露出を補正することができます。

露出補正ボタンと強制発光ボタンを同時に押しながら①、前または後ダイヤルを回して希望の光量補正値を設定します②。設定が終われば露出補正ボタン、強制発光ボタンを離します。

-1.0

- −3.0から+3.0まで、0.5段ごとに設定できます。
- 補正値設定中は、ボディ表示部とファインダー内に設定したフラッシュ光量補正値が表示されます。
- 設定後は、ボディ表示部とファインダー内に が表示され、フラッシュ光量補正中であることをお知らせします。
- 内蔵フラッシュが下がっているときでも、補正値は設定できます。
- フラッシュ光量補正を解除する場合は、上記と同じ操作で補正値を0.0にしてください。
- プログラムフラッシュを取り付けてフラッシュ撮影するときは、プログラムフラッシュの光量を補正します。ただし、TTL調光ではないマニュアルフラッシュ撮影の場合は、光量補正値に関係なく、そのとき設定された光量でフル発光します。
- 登録機能を使えば、設定したフラッシュ光量補正値をカメラに憶えさせ、ワンタッチで呼び出すことができます(69ページ参照)。

注意
- フラッシュ光量補正は、フラッシュの光量のみを補正します。定常光は補正しません。
- 露出補正(45ページ参照)は、フラッシュ光も定常光も含めた、全体の露出レベルを補正します。

ワイヤレスフラッシュ撮影

別売のプログラムフラッシュ5400HS、5400Xi、3500Xiのいずれかが必要です。

フラッシュをカメラの上に取り付けて撮影すると、写真①のように平面的な印象を受ける写真になることがあります。このようなとき、フラッシュをカメラから離して撮影すると、フラッシュの位置を工夫することで、陰影を付けて立体感を出すことができます(写真②)。このようなフラッシュをカメラから離した撮影を、オフカメラフラッシュ撮影と呼びます。

写真③はカメラの内蔵フラッシュと、オフカメラフラッシュの光量を1：2の割合で発光させたものです。明暗差が柔らかくなり、自然な陰影を付けることができます。このような2灯以上のフラッシュの光量に比をつけた撮影を、光量比制御撮影と呼びます。

従来、一眼レフカメラではこのオフカメラフラッシュ撮影をするときには、カメラとフラッシュをコードで接続する必要がありました。このカメラは、カメラとフラッシュの信号の伝達をコードではなく、フラッシュの光を利用して行なうことができます。このフラッシュ撮影をワイヤレスフラッシュ撮影と呼びます。もちろん露出はカメラが自動で適正露出になるよう制御します。

このカメラと組み合わせてワイヤレスフラッシュ撮影できるフラッシュは、5400HS、5400Xi、3500Xiの3機種です。また、このカメラでは、次の3通りのワイヤレスフラッシュ撮影を行なうことができます。

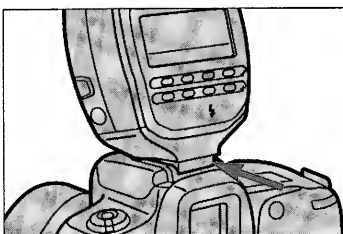
1 内蔵フラッシュが信号になるワイヤレスフラッシュ撮影

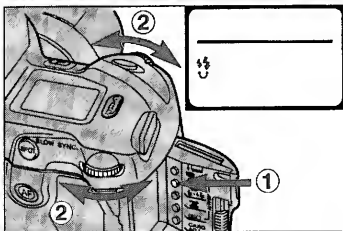
2 プログラムフラッシュがカメラに取り付けられて信号になるワイヤレスフラッシュ撮影(67ページ参照)

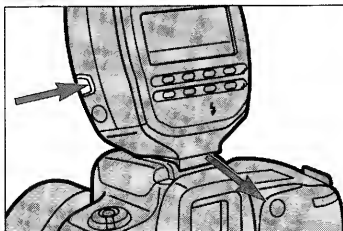
3 ワイヤレスフラッシュリモコン(別売)が信号になるワイヤレスフラッシュ撮影(67ページ参照)

1 内蔵フラッシュが信号になるワイヤレスフラッシュ撮影

【設定方法】

1

フラッシュをONにし、カメラに取り付けます。

2

カードホルダー内のフラッシュモードボタンを押し①、指を離してから、前または後ダイヤルを回して②、ボディ表示部に ⚡⚡ を交互に点滅させます。

3

フラッシュをカメラから取り外します。

【撮影方法】

このカメラは、内蔵フラッシュの発光を信号として5400HSや5400Xi、3500Xiを発光させます。信号が正しく受け取れるように以下のことに気を付けてください。

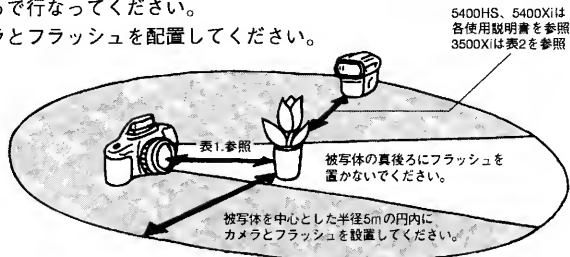
- 室内など、暗いところで行なってください。
- 下記の範囲内にカメラとフラッシュを配置してください。

1 カメラ、フラッシュ、被写体を上図のように設置します。

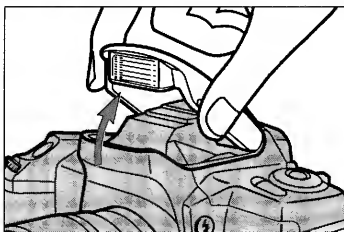
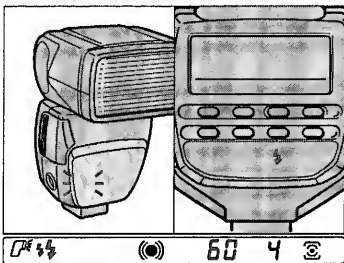
表1：ワイヤレスフラッシュ撮影時の被写体とカメラとの距離(単位メートル)

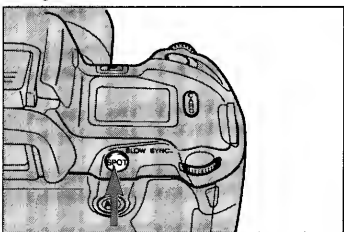
	フイルム感度	
絞り値	ISO100	ISO400
2	2.0−5.0	4.0−5.0
2.8	1.4−5.0	2.8−5.0
4	1.0−5.0	2.0−5.0
5.6	1.0−5.0 (1.0−4.0)	1.4−5.0
8	1.0−5.0 (1.0−2.8)	1.0−5.0
11	1.0−5.0 (1.0−2.0)	1.0−5.0

( )は、光量比制御撮影の場合の被写体とカメラの距離です。

- ワイヤレスフラッシュ撮影時の被写体とフラッシュとの距離
5400HS、5400Xiをご使用の場合は各フラッシュの使用説明書をご覧ください。
3500Xiをご使用の場合は下の表を目安にしてください。

表2：フラッシュ(3500Xi)と被写体の距離(単位メートル)

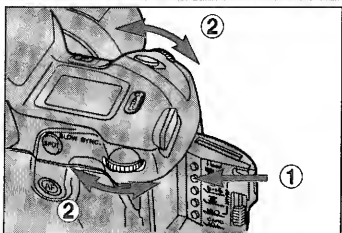
	フイルム感度	
絞り値	ISO100	ISO400
2	1.4 −5.0	2.8−5.0
2.8	1.0 −5.0	2.0−5.0
4	0.7 −4.5	1.4−5.0
5.6	0.5 −3.2	1.0−5.0
8	0.35−2.25	0.7−4.5
11	0.25−1.6	0.5−3.3

2 内蔵フラッシュを持ち上げます。

3 フラッシュと内蔵フラッシュの充電完了を確認します。

- フラッシュは、背面の⚡マークが点灯し、前面のAF補助光が点滅すると充電完了です。
- 内蔵フラッシュは、ファインダー内の⚡⚡が交互に点滅すると充電完了です。

4 カメラのスポットAELボタンを押して、ワイヤレス設定したフラッシュが発光することを確認します(テスト発光)。

5 もう一度両方のフラッシュの充電完了を確認し、シャッターボタンを押し込んで撮影します。

- シャッター速度は自動的に1／60秒以下に設定されます。

- 5のとき、カメラの強制発光ボタンを押しながら撮影すると、カメラの内蔵フラッシュも発光し、フラッシュと内蔵フラッシュの光量比を2：1にする光量比制御撮影ができます(光量比制御撮影の場合、シャッター速度は自動的に1／60秒以下に設定されます)。

【ワイヤレスフラッシュの解除】

フラッシュをONにし、カメラに取り付けます。

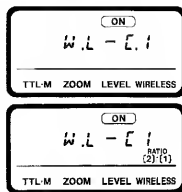
カードホルダー内のフラッシュモードボタンを押し①、指を離してから、前または後ダイヤルを回して②、ボディ表示部に⚡⚡の交互点滅以外のマーク(AUTO⚡👁 または AUTO⚡)を表示させます。

●2の代わりにプログラムセットボタンを押しても、ワイヤレスフラッシュは解除できます。この場合、カメラは全自動の状態になります(21ページ参照)。
また、メインスイッチをLOCKにすると、次にONにしたときはワイヤレスフラッシュは解除されています。

2 プログラムフラッシュがカメラに取り付けられて信号になるワイヤレスフラッシュ撮影

上記1の内蔵フラッシュの代わりに、プログラムフラッシュ5400HS または5400Xiを使っても、1と同様のワイヤレスフラッシュ撮影ができます。

詳しくは、プログラムフラッシュ5400HS または 5400Xiの使用説明書をご覧ください。

なお、5400Xiの使用説明書ではボディをα-9Xiで説明してありますが、このカメラに取り付けても使用できます。ただし、操作方法が一部異なります。まず、WIRELESSボタンで5400Xiを右のいずれかの表示にセットしてから、このカメラに取り付けてください。またテスト発光させるボタンは、α-9XiではAEロックボタンですが、このカメラではスポットAELボタンになります。

3 ワイヤレスフラッシュリモコン(別売)が信号になるワイヤレスフラッシュ撮影

上記1の内蔵フラッシュの代わりに、別売のワイヤレスフラッシュリモコンを使っても、1と同様のワイヤレスフラッシュ撮影ができます。また、ワイヤレスフラッシュリモコンを使えば、2台以上のフラッシュを用いてワイヤレスフラッシュ撮影するとき、それぞれのフラッシュの光量比を1：2または2：1にした光量比制御撮影もできます。

詳しくは、ワイヤレスフラッシュリモコンの使用説明書をご覧ください。

ワイヤレスフラッシュリモコンはα-9Xiのアクセサリーとして発売された製品ですが、このカメラに取り付けても使用できます。
操作方法はα-9Xiに取り付けた場合と同様ですが、テスト発光のためのボタンが異なります。α-9XiではAEロックボタンですが、このカメラではスポットAELボタンになります。

このカメラをより有効にご活用いただくために

この章では、多彩な撮影を楽しむためのさまざまな機能について説明しています。ぜひご一読いただき、このカメラをより有効にご活用ください。

カメラの状態をあらかじめカメラに登録しておくことができます（登録機能）

撮影目的や撮影意図に応じたカメラの状態を、あらかじめカメラに登録することができます。一度登録しておけば、あとは登録呼び出しボタンを押すだけで、カメラをその状態に設定できます。

登録させることができる項目とその内容 または 範囲

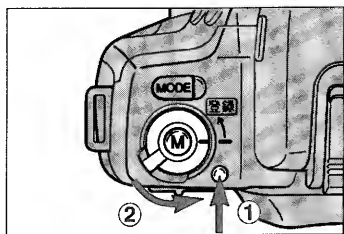
①撮影モード……………………P／A／S／Mのいずれか
②絞り値(レンズに依る)………F1.0 ～ F64の範囲内の値
③シャッター速度………………30秒 ～ 1／8000秒の範囲内の値 または バルブ
④巻き上げモード………………1コマ(□)／連続(□)／多重露光(■)／セルフタイマー(◌)のいずれか
⑤フラッシュモード……………プリ発光あり(AUTO または ◌)／プリ発光なし(AUTO または ϟ)／ワイヤレスフラッシュ設定(ϟ)のいずれか
⑥露出補正値……………………±3.0段の範囲内で、0.5段ごと
⑦フラッシュ光量補正値………±3.0段の範囲内で、0.5段ごと
⑧測光方式………………………14分割ハニカムパターン測光(◌)／中央重点的平均測光(◌)／スポット測光(◌)のいずれか
⑨フォーカスフレーム…………ワイドフォーカスフレーム／ローカルフォーカスフレーム(4ヵ所)のいずれか
⑩AFP／RP ………………………オートフォーカス優先(AFP)／レリーズ優先(RP)のいずれか

- 撮影モードとしてAモードだけを登録する、という使い方もできますが、この場合撮影モード以外の各項目については、そのときのカメラの状態がそのまま自動的に登録されます。
- 上記の10項目以外の項目は登録できません。
- インテリジェントカード機能が働いているときは、カードが自動設定している項目も含めて、そのときのカメラの状態が登録されます。たとえば、オートシフトカードの機能を働かせると、露出モードがPモードに、巻き上げモードが連続に、それぞれ自動的に設定されます。したがって、露出モードはPモードのみ、巻き上げモードは連続のみ登録できることになります。

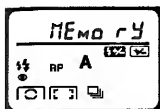
登録の仕方

1 69ページの各項目について、カメラを登録したい状態に設定します。

2

ロック解除ボタンを押しながら①、登録レバーを矢印の方向に止まるまで(横棒が[登録]の位置にくるまで)回します②。

● ボディ表示部に"MEMO rY"と表示され、登録されたことをお知らせします。また、今回登録される項目がボディ表示部に表示されます。

3 登録されたことを確認したら、ロック解除ボタン、登録レバーを離します。

● ロック解除ボタン、登録レバーは自動的に元の位置にもどります。ボディ表示部も元の表示に戻ります。

● 左図は、Aモード/連続撮影/赤目防止プリ発光あり/露出補正/フラッシュ光量補正/中央重点的平均測光/ワイドフォーカスエリア/レリーズ優先(RP)を登録したときのボディ表示部です。

● このとき、絞り値、シャッター速度、露出補正値、フラッシュ光量補正値の各数値は表示されません。
● 露出補正値、フラッシュ光量補正値を設定していないとき(値を0.0にしているとき)は、[±]、[⚡±]は表示されません。
● 一度登録した状態は、メインスイッチをLOCKにしても、電池を抜いても保持されています。
● 別の状態を登録したいときは、カメラをその状態に設定し直して、2、3の操作をします。前回登録した内容は消去され、新たな状態が登録されます。

呼び出し方

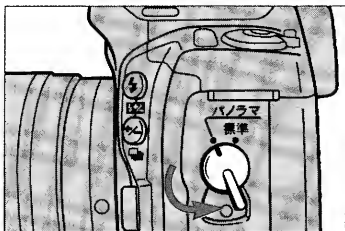
登録呼び出しボタンⓂを押します。登録しておいた状態にカメラが設定されます。

● 呼び出し後でも、各項目についてカメラ機能で変更することができます。

パノラマ写真を写してみましょう

撮影の途中でも、標準撮影とパノラマ撮影を切り替えることができます。

パノラマへの切り替え

1

パノラマ切り替えレバーをパノラマ側にします。

- アイスタートスイッチがONのときはカメラを構えると、アイスタートスイッチがOFFのときはシャッターボタンを半押しすると、ファインダー内にパノラマフレームが表示されます。
- ワイドフォーカスフレームは縦位置と同じものが表れます(27ページ参照)。

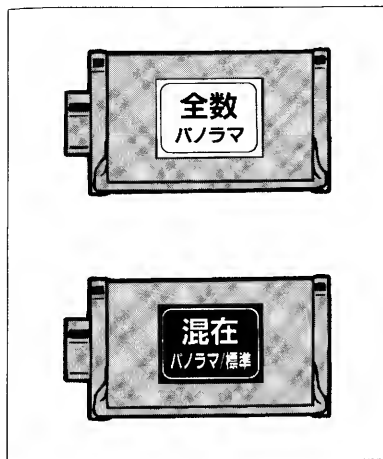
2

構図を決めて撮影します。

- 標準撮影にもどすときは、パノラマ切り替えレバーを標準側にします。

注意
- パノラマ切り替えレバーは、止まるまで(レバーの指標▬がきちんと●を指すまで)確実に操作してください。

- パノラマ撮影したフイルムは、図のように上下に露光されない部分があります。
- パノラマ撮影してもフイルムの撮影枚数は変わりません。
- パノラマ写真の一般的なプリントサイズは90㎜×250㎜です。
- パノラマ撮影するときは、画面の周辺に少し余裕を持たせてください。プリントされる範囲が、実際に撮影した画面よりも、やや狭くなることがあります。

<パノラマ撮影したフイルムを現像・プリントに出すときは>

付属のパノラマシールをフイルム(パトローネ)に貼ってから、パノラマ撮影したフイルムであることをお店に伝えて、出してください。
パノラマシールは2種類あり、すべてパノラマ撮影したフイルムには「パノラマ全数」を、途中で切り替えて撮影したフイルムには「パノラマ／標準混在」を貼ってください。

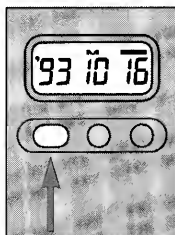
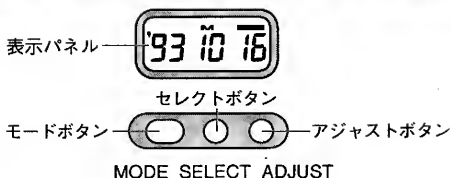
● パノラマシールがなくなった場合は、当社サービスセンター、サービスステーション(裏表紙記載)にお問い合わせください。

■シールを貼る位置

図の点線内に貼ってください。

● バーコードの上やDXコードの上(銀色と黒色の組み合わさった部分)には貼らないでください。

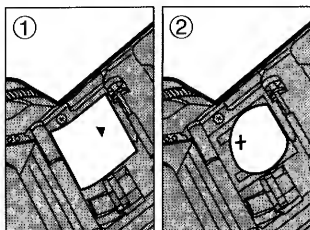
日付・時間を写し込むには

撮影時の日付や時間を写し込むことができます。このカメラには2019年までの日付が記憶されています。
パノラマ写真にも写し込むことができます。

モードボタンを押して、写し込みたい表示を選びます。

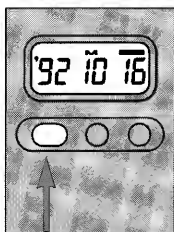
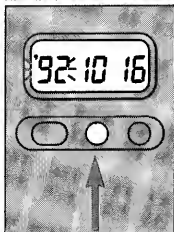
「年・月・日」モード '93 10 16 → 「日・時・分」モード 16 14:20 → 「写し込みなし」 ------ → 「月・日・年」モード 10 16'93 → 「日・月・年」モード 16 10'93 → 「年・月・日」モード

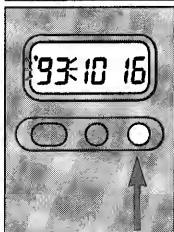
注意
- 写し込み位置に明るい色（空や白い壁など）があると、文字が読みにくくなることがあります。

写し込み用電池の交換

写し込んだ文字が薄くなってきたら電池を交換してください。CR2025を1個使用します。

裏ぶたを開けて、電池室のふたを▶の方向に押して開けます①。
古い電池を取り出し、新しい電池の＋側を上にして電池室に入れ②、ふたを閉めます。

- ふたを閉めるときは、右部を差し込んでから、左側へ押し込みます。
- 写し込み用電池を交換した後は、日付・時間を修正してください。

日付・時間の修正

1 モードボタンを押して、修正したい表示を選びます。

2 セレクトボタンを押して、修正したい数字を点滅させます。

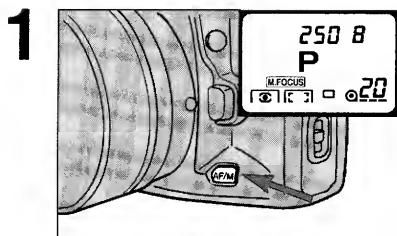
- セレクトボタンを押すたびに、年→月→日または時→分→：の順に点滅する数字が変わります。

3 アジャストボタンを押して、正しい数字に合わせます。

- アジャストボタンを押し続けると、数字は連続的に変わります。
- 秒を時報に合わせるには、：を点滅させ、時報に合わせてアジャストボタンを押します。

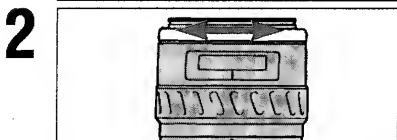
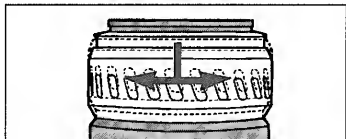
4 数字が点滅しなくなるまで、セレクトボタンを押します。

- 表示パネルの「－」が点灯し、撮影できる状態になります。

手動でピントを合わせるには(マニュアルフォーカス)

1

カメラのフォーカスモードボタンを、カチッと音がするまでカメラ側に押し込みます。

●ボディ表示部に M.FOCUS と表示されます。

2

＜AFズームレンズ・AFレンズの場合＞
レンズ先端のフォーカスリングを左右に回します。

＜AFズームXiレンズ・AFパワーズームレンズの場合＞
レンズのズームリングをカメラ側に引き、そのまま左右に回します。

●オートフォーカスでピントが合うような被写体の場合は、ファインダー内のフォーカス表示 ● が点灯して、ピントが合ったことをお知らせします。

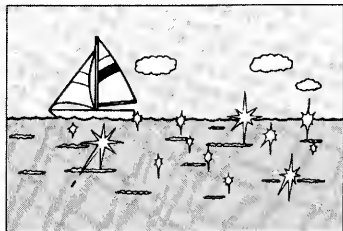
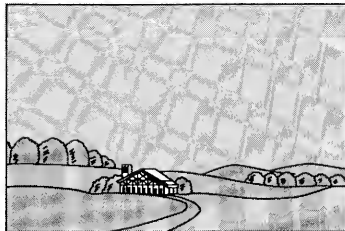
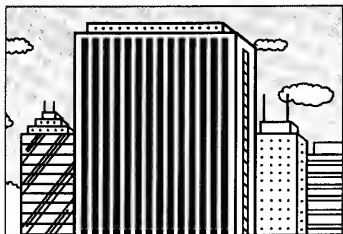
3 被写体が最もはっきり見えるところで指を離します。

4 そのままの状態で撮影します。

●もう1度フォーカスモードスイッチをカメラ側に押し込むと、オートフォーカスに戻ります。

14分割ハニカムパターン測光はオートフォーカスと連動しているため、マニュアルフォーカスにすると、測光方式は常に中央重点的平均測光になります(43ページ参照)。

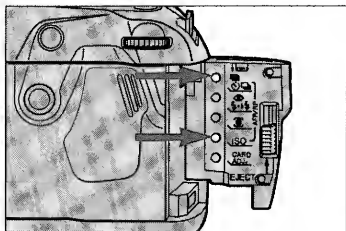
<オートフォーカスの苦手な被写体>

オートフォーカス撮影でのピント合わせは、被写体のコントラスト(明暗差)を利用しています。したがって、以下のような被写体ではオートフォーカスでピントが合いにくいことがあります。このような場合は、写したいものと同じ距離にあるピントの合いやすい被写体でフォーカスロック撮影(25、26ページ参照)するか、手動によるピント合わせを行なってください。

●太陽のように明るすぎる被写体や、車のボディ、水面などきらきら輝いている被写体

●青空や壁などコントラスト(明暗差)のない被写体

●オフィスビルの外観など、繰り返しパターンの連続する被写体

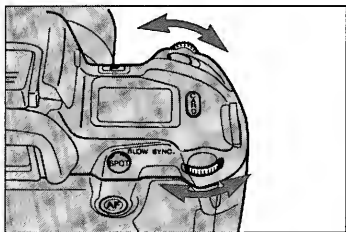
●おりの中の動物など、フォーカスフレームの中に距離の異なる被写体が混じっているとき

ピントが合わなくてもシャッターを切りたいときは

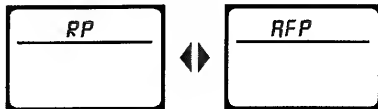
このカメラは、撮影に応じて、ピントが合うまでシャッターが切れない"オートフォーカス優先(AFP)"と、ピントが合っていなくても切りたいときにシャッターが切れる"レリーズ優先(RP)"を切り替えることができます。

1

カードホルダーを開け、セルフタイマー／巻き上げモードボタンを押しながらフイルム感度設定ボタンを押します。

- ボディ表示部に現在の設定が表示されます。オートフォーカス優先(AFP)に設定されているときは"AFP"が、レリーズ優先(RP)に設定されているときは"RP"が表示されます。

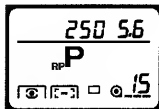
2

前または後ダイヤルを回して、AFP(オートフォーカス優先)かRP(レリーズ優先)かを選びます。

- ダイヤルを回すたびに、AFPとRPが交互に表示されます。

RP ◀▶ AFP

3

シャッターボタンを半押しします。

- レリーズ優先(RP)に設定した場合、ボディ表示部に**RP**と表示され、レリーズ優先に設定されていることをお知らせします。
- 登録機能を使えば、オートフォーカス優先(AFP)かレリーズ優先(RP)かをカメラに憶えさせ、ワンタッチで呼び出すことができます(69ページ参照)。

250 5.6
RP P
15

注意　●レリーズ優先時は、シャッターを切るタイミングによってはピントの合わない写真になることがあります。

フイルム感度の設定と変更

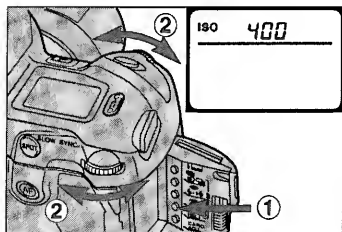
DXコードの付いたフイルムのとき

通常はフイルム感度を設定する必要はありません。

- フイルムに付いているDXコードをカメラが読み取り、自動的にフイルム感度を設定します。

DXコードの付いていないフイルムや、フイルム感度を変更して使用するとき

DXコードの付いていないフイルムをお使いの場合は、以下の要領で、フイルムパッケージなどに記載されているフイルム感度をカメラに設定してください。また、増感撮影(フラッシュが使えない室内撮影などで、被写体の動きを止めるために速いシャッター速度が必要な場合に、実際のフイルム感度より大きい値を設定して撮影すること)など、意図的にフイルム感度を変更する場合も、以下の要領で行なってください。

1

カードホルダーを開け、フイルム感度設定ボタンを押し①、指を離してから、前または後ダイヤルを回して②、希望のフイルム感度を選びます。

- ボディ表示部とファインダー内に現在のフイルム感度が表示されます。
- 設定可能なフイルム感度の範囲はISO6～6400です。

2 シャッターボタンを半押しします。

- 撮影中にフイルム感度設定ボタンを押せば、現在のフイルム感度を確認することができます。

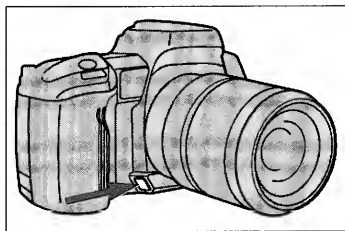
注意
- 増感撮影するときは、変更した感度でそのフイルムの全コマを撮影してください。1本のフイルムの途中から増感／減感することはできません。

<フイルム感度変更記憶機能>

このカメラは、フイルム感度を意図的に変更した場合、その後も同じ感度のフイルムを続けて使用すると、変更した感度を記憶し続けます。

- カスタムカードXiを使うと、この機能を働かせないようにすることができます。詳しくはカスタムカードXiの使用説明書をご覧ください。

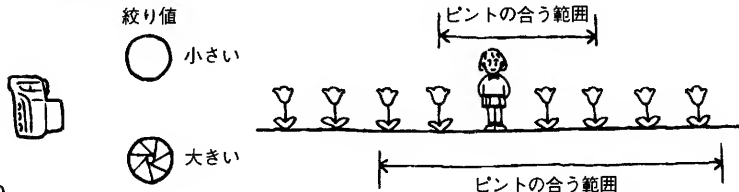
プレビュー（絞り込み）

ファインダー内には、通常絞りが一番開いた状態の像が見えています。プレビューボタンを使うと、撮影のときの絞りまで絞り込まれますので、撮影前にあらかじめおおよその被写体のボケ具合などを確認することができます。

プレビュー（絞り込み）ボタンを押します。

- 押している間、表示されている絞り値まで絞りが絞り込まれます。ピントと露出は固定されます。
- プレビューボタンを押したまま、シャッターボタンを押して撮影することができます。
- プレビューボタンを押している間は、シャッターボタン以外のボタンを受け付けません（操作しても何も変化しません）。

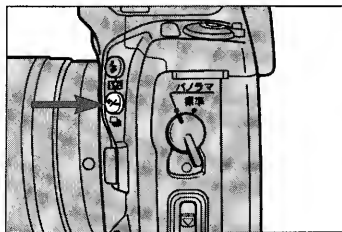
- プレビュー時には、アキュートマット（焦点板）の特性上、ファインダー中央部が陰ることがあります。
- ボタンを離すとプレビュー（絞り込み）は解除されます。このときミラーが動くため、一瞬ファインダー内の像が見えなくなります。

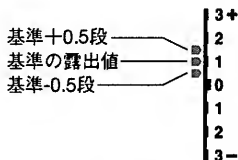
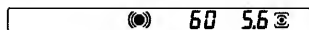
注意
- プレビューボタンを押したとき、ピントが合わなかった（フォーカス表示の●が点滅 または《》が点灯する）場合は、プレビューボタンを押しているとシャッターが切れません。
- ハイスピードシンクロの制御になるとき（ファインダー内およびボディ表示部にHが点灯するとき）は、プレビューボタンを押しているとシャッターが切れません。

＊被写界深度とは、ピントを合わせた被写体の前後で、実用上写真としてピントが合って写る範囲のことをいいます。F1.4、F2など絞り値が小さい（絞りが開放側になる）ほど被写界深度は浅く（ピントが合って写る範囲は狭く）なり、被写体の前後がボケて写ります。F22、F32など絞り値が大きい（絞りが絞り込まれる）ほど、被写界深度は深く（ピントが合って写る範囲は広く）なります。

ブラケット(露出ずらし)撮影

リバーサルフイルムを使うときなど厳密な露出を要求される撮影では、適正露出での撮影以外に、適正露出の前後に少し露出をずらして何点か撮影することがあります。これをブラケット(露出ずらし)といいます。

露出補正ボタンを押しながら撮影すると、露出をずらしながら3枚の連続写真を撮ることができます。露出のずらし量は0.5段で、撮影は−0.5段、±0、+0.5段の順に行なわれます。

1

露出補正ボタンを押したまま、シャッターボタンを半押しします。

- ファインダー内に、そのときの測光方式に応じた測光インジケーターが表れ、基準の露出値(±0)と+0.5段、−0.5段の計3つの指標(■)が点灯します。また、ボディ表示部に▣が表れます。

- ファインダー表示部には1コマ目(基準の露出値−0.5段)の露出制御値が表示されます。

2

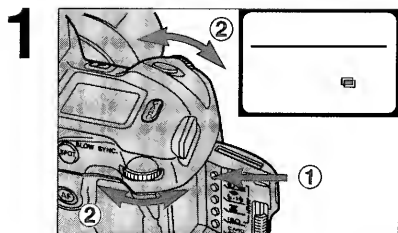
そのままシャッターボタンを押し込んで撮影します。

- 3枚目の撮影が終わるまで露出補正ボタン、シャッターボタンから指を離さないでください。

- フラッシュは使用できません。
- ピントと基準の露出値(±0)は1枚目を撮影するときに固定されます。
- 露出補正(45ページ参照)をかけると、基準の露出値もそれに応じて変わります。
- オートブラケットカード、オートブラケットカード2を使っていてカードを働かせているときは、カードの機能によるブラケットとなります。

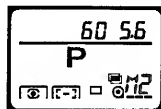
多重露光

フイルムの1コマに2回の露光をすることができます。

1

カードホルダーを開けてセルフタイマー／巻き上げモードボタンを押し①、指を離してから、前または後ダイヤルを回してボディ表示部に ▭ を表示させて②、シャッターボタンを半押しします。

2

シャッターボタンを押して撮影します。

- 1回目の露光が行なわれ、ボディ表示部のフイルムカウンターに“M2”と表示されます。フイルムは巻き上げられません。

3

もう1度シャッターボタンを押して撮影します。

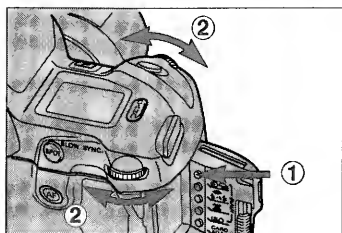
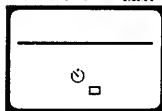
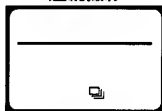
- 2回目の露光が行なわれ、フイルムが巻き上げられます。
- ボディ表示部の ▭ が消え、設定が解除されます。次のコマも多重露光したいときは、1の操作から繰り返します。

- 2回目の露光を行なう前(3の操作の前)に多重露光を解除したいときは、1と同じ操作でボディ表示部に ▭ 以外のマークを表示させてください。
- 多重露光カードを入れると、ボディでの多重露光は解除されます。また、多重露光カードを使用しカードの機能を働かせているときは、ボディの多重露光を設定できません。

注意
- 多重露光撮影では、各撮影の露光量の合計が1コマの露光量になります。そのため、背景や被写体が重なる場合は、あらかじめ露出補正しておく必要があります。
- ネガフイルムで多重露光した場合は、その旨を店頭で申し出ないとプリントされないことがあります。

セルフタイマー撮影／連続撮影

セルフタイマー撮影で自分も一緒に写ったり、連続撮影で思いがけない瞬間の映像を楽しむことができます。

1

カードホルダーを開けてセルフタイマー／巻き上げモードボタンを押し①、指を離してから、前または後ダイヤルを回してボディ表示部に 🕓 または ⧉ を表示させて②、シャッターボタンを半押しします。

セルフタイマー撮影

セルフタイマーを選び、ピントを合わせ、シャッターボタンを押し込みます。

- ボディ表示部の 🕓 およびセルフタイマーランプが点滅し、約10秒後に撮影されます。
- 撮影が終わるとセルフタイマーは自動的に解除されます。
- シャッターボタンを押し込んだ後にセルフタイマーを止めたいときは、メインスイッチをLOCKにしてください。

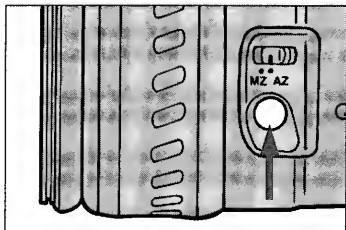
連続撮影

連続撮影を選びます。

- シャッターボタンを押し込んでいる間、1秒間に3コマの速さで連続して撮影されます。
- カメラをオートフォーカス優先(AFP)に設定していると、ピントが合うまでシャッターが切れませんので、1秒間に3コマの速さで連続撮影できないことがあります。連続撮影の速さを優先したいときは、カメラをレリーズ優先にしてください(77ページ参照)。
- 連続撮影中は、パワーズームはできません(AFズームXiレンズまたはAFパワーズームレンズ使用時)。

近づく被写体を同じ大きさで撮影できます(イメージサイズロック)

イメージサイズロックは、近づいてくる被写体がほぼ同じ大きさで写せるように自動的にズーミングする機能です。AFズームXiレンズ使用時に働きます。

●アイスタートスイッチがOFFになっている(アイスタートが働いていない)ときは、イメージサイズロックは作動しません。イメージサイズロックを使うときは、アイスタートスイッチをONにしてください。

被写体の大きさが撮影したい大きさのところでレンズボタンを押し、そのまま被写体が希望の位置に来たところで撮影します。

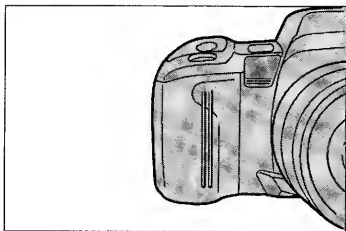
●近づいてくる被写体に対して、自動的に広角側へズームします。なるべく、望遠側で大きさを決めてください。
●イメージサイズロックが働きはじめると、ファインダー内の表示が下図の様に変わります。

●シャッターボタンを半押しすると、シャッター速度と絞り値の表示になります。
●レンズボタンを押している間、被写体の動きに合わせてズーミングを続けます。

レンズボタンを押したときに以下の場合はイメージサイズロックが働きません(ファインダー内およびボディ表示部に"ISL --"表示されたままになります)。
●被写体が遠すぎて小さすぎるとき
●レンズが広角(焦点距離が50mm以下)のとき
●ピント合わせができないとき

こんなことも知って
おきましょう

この章では、このカメラをお使いになる上で知っておいて欲しいことや、お使いになる際の注意事項のついて説明しています。
またこのカメラを末長く御愛用いただくためにも、96ページの手入れの仕方、保管の仕方はぜひお読みください。

AF補助光(ピント合わせのために赤いランプが光ります)

被写体が暗い、明暗差(コントラスト)が小さいなど、ピントを合わせにくい場合は、赤色のAF補助光が自動的に発光し、ピント合わせができるようにします。

- AF補助光での測距可能範囲は、約0.7～7メートルです(50㎜レンズ使用時、当社試験条件による)。
- カメラを構えたときに、AF補助光発光部を覆わないようにしてください。
- レンズの焦点距離が300mm以上のときは、AF補助光は発光しないことがあります。AFマクロズ-ム3X-1X使用時にも、AF補助光は発光しません。

露出の警告(表示が点滅したとき)

被写体が明るすぎたり暗すぎて、カメラの測光できる範囲を越えていたり、制御できるシャッター速度や絞りの範囲を越えている場合に、ボディ表示部とファインダー表示部に以下のように表示してお知らせします。そのまま撮影すると適正露出が得られませんので、点滅しないように設定を変えてください。

	表示部	原因	処置
P/A/S/M	8000 32 P 16 / 8000 32	被写体が明るすぎる、または暗すぎてカメラの測光範囲を越えています。	被写体が明るすぎるときは、NDフィルターを使うか、被写体が暗くなるようにします。被写体が暗すぎるときは、フラッシュ撮影を行なうか、被写体が明るくなるようにします。
P	8000 32 P 16 / 8000 32	被写体が明るすぎる、または暗すぎて使用レンズの絞り値、シャッター速度の範囲を越えています。	
PA/A	8000 2.8 A 17 / 8000 2.8	被写体が明るすぎる、または暗すぎてシャッター速度の範囲を越えています。	シャッター速度が点滅しないように絞り値を変更します。
PS/S	8000 2.8 S 18 / 8000 2.8	被写体が明るすぎる、または暗すぎて使用レンズの絞り値の範囲を越えています。	絞り値が点滅しないようにシャッター速度を変更します。

測光インジケーター表示一覧表

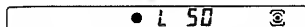
カメラの状態		指標(■)の表示内容
P/A/Sモード設定時	14分割ハニカムパターン測光での 露出補正中 (露出補正ボタンを押している間)	中央重点的平均測光による露出値を基準値(0)にして、14分割ハニカムパターン測光による露出値の、基準値に対する差を表示 ※撮影者が設定した露出補正分も含む
P/A/Sモード設定時	中央重点的平均測光、スポット測光での 露出補正中 (露出補正ボタンを押して、ダイヤルで補正値を設定している間)	撮影者が設定した露出補正量を表示
P/A/Sモード設定時	スポットAELボタンを押している間	スポットAELボタンを押して固定したときの測光値を基準値(0)とし、その基準値と、構図を変えた後のスポット測光フレーム内の測光値の、基準値との差を表示
Mモード設定時		カメラがそのときの測光方式によって測光した露出値を基準値(0)とし、撮影者が設定したシャッター速度と絞り値による露出値の、基準値との差を表示 (メータードマニュアル表示)
全露出モード	ブラケット操作中 (露出補正ボタンを押したままシャッターボタンを半押ししている間)	そのときの露出モードと測光方式とから決定された露出制御値と、その0.5段オーバー、0.5段アンダーの値を表示

アクセサリーについて

αシステムのいろいろなアクセサリーを使って撮影を楽しむことができます。
※本書に記載されているアクセサリー以外のアクセサリーを使用されるときは、当社サービスセンター、サービスステーションにご相談ください。

レンズ

◆すべてのミノルタαレンズが使用できます。それ以外のレンズ(MDレンズやMCレンズなど)はご使用になれません。
◆AFズームXiレンズ、AFパワーズームレンズをご使用の場合、アイスタートスイッチがONのときはカメラを構えてレンズのズームリングを手前に引くと、アイスタートスイッチがOFFのときはズームリングを手前に引いたままシャッターボタンを半押しして離すと、その時の焦点距離がボディ表示部とファインダー表示部に表示されます。

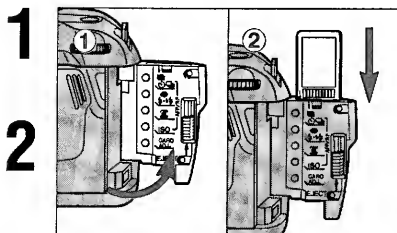
● L 50

◆レンズとカメラに交信が正しく行なわれていない状態(レンズが取り外されているときや正しく取り付けられていないとき、またはAFレンズ信号接点が汚れているときなど)では、絞り値表示が“--”になり、フイルムが入っている場合は、誤動作を防ぐためシャッターが切れない仕組みになっています。したがって、天体望遠鏡などにカメラを取り付けたときはシャッターが切れませんので、お近くのサービスセンターまたはサービスステーションにお問い合わせください。

フラッシュ

内蔵フラッシュでは光が届かない領域でも、より大光量のプログラムフラッシュを用いれば、フラッシュ撮影することができます。
◆プログラムフラッシュ5400HS、およびミノルタXiシリーズフラッシュ(5400Xi, 3500Xi)、iシリーズフラッシュ(5200i, 3200i, 2000i)は、そのままご使用になれます。この場合、Pモードでは必要に応じて自動発光します。フラッシュ強制発光ボタンを押しながら撮影すると、フラッシュは常に発光します。A／S／Mモードでは、フラッシュの発光がONだと必ず発光します。
◆AFシリーズフラッシュ(4000AF, 2800AF, 1800AF, マクロ1200AF)をお使いになる場合は、別売のフラッシュシューアダプターFS-1100を使ってカメラに取り付けてください。この場合、フラッシュのAF補助光は発光しません。また、PモードでもフラッシュのAF発光がONのときは、必ず発光します。
◆AFシリーズ以前のフラッシュ(Xシリーズなど)は使用できません。

インテリジェントカード

インテリジェントカードを使用すると、高度なテクニックを使った写真を簡単に撮ったり、撮影目的に応じてカメラの機能を広げたりすることができます。
このカメラは、α-8700i/α-7700i用のカスタムカードとα-5700i用のA/Sモードカードを除く全てのカードが使用できます。

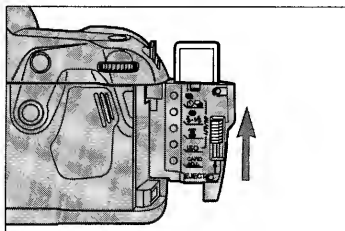
＜カードの入れ方＞

1 メインスイッチをONにして、カードホルダーを開けます①。

2 信号接点を手前にしてカードを入れます②。

- ボディ表示部に CARD と表示されます。

3 カードホルダーを閉めます。

- カードを入れたままでカードを機能させないときには、カードキーを押して、ボディ表示部の CARD を消してください。
- カードの入れ方によっては、カードを入れたときボディ表示部にカード名が表示されないことがあります。この場合カードの機能が正常に働かないことがありますので、いったんカードを取り出し、再度入れ直して、ボディ表示部にカード名を表示させてください。

＜カードの取り出し方＞

カードホルダーを開け、カードイジェクト（取り出し）レバーを押し上げます。

<カード使用時の注意>

カード	カード機能が使えるか、使えないか	以下のボディ機能が、左記カードとの組み合わせで使えるか、使えないか			
		オートブラケット	多重露光(2コマ)	登録機能	AFボタン
旅	△1,2	○	○	△16	○*3
子供	○	○	○	△16	○*4,5
スポーツ	○	○	○	△16	○*4
スポーツ2	○	○	○	△16	○*4,5
ポートレート	○	○	○	△16	○
記念撮影(オートデプス)	△2	○	○	△16	○*3
クローズアップ	○	○	○	△16	○
流し撮り	△3	−	○	△16	○*4
インターバル	○	−	○	○	○
背景描写制御	△4	○	○	△16	○
多重露光	△5,6	−	−	△17	○
オートブラケット	△5,7	−	−	△18	○
フラッシュブラケット	△5,8	−	−	△19	○*3
オートブラケット2	△8	−	−	定常光ブラケットモードでは△18 フラッシュブラケットモードでは△19	○
データメモリー	△5,9	○*1	○*2	○	○
データメモリー2	○	○*1	○*2	○	○
ファンタジー	△10	−	○	△16	○*3
ファンタジー2	△11	−	○	△16	○*3,6
オートシフト	△5,12	−	−	△16,18	○
オートシフト2	○	−	−	△18	○
マルチスポット	△13,14	○	○	△20	○
ハイライト/シャドー	△13	○	○	△20	○
カスタムXi	△15	○	○	○	○

○:使用できます(*1〜*6については次ページの【補足説明】をご覧ください)。
△:次ページ記載の、制限付きで使用できます。
−:ボディの機能は使用できません。カードの機能が優先されます。

1: α-707siではASZ(オートスタンバイズーム)は作動しません。
2: レリーズ優先でも、ピントが合うまではシャッターが切れません。また、レリーズ優先での連続撮影は、2コマ目以降ピントのボケた写真になることがありますのでおすすめできません。
3: 被写体の追い方が測光インジケーターに表示されます。表示が+側にあるときは被写体をスムーズに追えています。
4: 被写体のボケ具合が測光インジケーターに表示されます。表示が+側にあるときは背景がくっきりと撮影されます。
5: アップダウンレバーのかわりに前ダイヤルで操作してください。
6: α-707siにはマニュアル絞りボタンがありませんので、Mモードでフラッシュを使用しないときに、絞り値をずらして行なうフェードイン/フェードアウトはできません。
7: α-707siにはマニュアル絞りボタンがありませんので、Mモードで、絞り値をずらして行なうブラケット撮影はできません。
8: アイスタートを働かせているときは、フラッシュブラケットモードでの次のコマの露出補正量と撮影コマ数は、カメラから目を離したときに表示されます。
9: シャッター速度1/200秒は1/180秒として記憶されます。
10: オートフォーカス優先でお使いください。レリーズ優先で使用する場合は、ピントが合っていることを確認してからシャッターを切ってください(ピントが合わないとカードの効果が得られません)。また、連続撮影はしないでください。
11: オートフォーカス優先でお使いください(レリーズ優先で使用されると、カードの効果が得られない場合があります)。
12: 撮影開始時の絞りとシャッター速度の組み合わせを変えることはできません。
13: カードを入れると測光方式は自動的にスポット測光になります。
14: アイスタートを働かせているときは、カメラから目を離したときに、それまでに測光した回数が表示されます。
15: パーソナルモードを設定・変更するときは、ファンクションボタンのかわりにモードボタンを押してください。パーソナルモードの露出補正値は、表示は±4.0までされますが、±3.5、±4.0に変更しても、カメラボディの上下限である、±3.0になります。また、パーソナルモードの測光方式は、ハニカムパターンまたは中央重点的平均測光のどちらかに設定してください。
16: カード使用時は、撮影モードはPモードのみ登録できます。
17: カード使用時は、巻き上げモードの多重は登録できません。
18: カード使用時は、巻き上げモードは連写またはセルフタイマーのみ登録できます。
19: カード使用時は、巻き上げモードは1コマ撮影またはセルフタイマーのみ登録できます。
20: カード使用時は、測光方式はスポット測光のみ登録できます。

【補足説明】
*1: ブラケットのシフト量(-0.5,±0,+0.5)はメモリーされません。
*2: 多重の2コマ目のデータがメモリーされます。
*3: AFボタンを押している間は1コマのみ撮影できます。2コマ目以降は、AFボタンを離すまで撮影できません。また、AFボタンを押したままでの連続撮影は、2コマ目以降ピントのボケた写真になることがありますのでおすすめできません。
*4: AFボタンを押すとワンショットAFに切り替わり、合焦後フォーカスロックされます(AFボタンの機能が優先します)。
*5: AFボタンを押すとAPZは停止します。AFボタンを押しながら前ダイヤルを回してフォーカスフレームを選択すると、APZのプログラム番号が変わります。
*6: レリーズ優先で、ファンタジー2で多重ファンタジーモードのときは、AFボタンを押したままだとカードの効果が得られません。

リモートコード RC-1000S/L

バルブ(長時間露光)撮影や、文献・資料の複写、接写など、カメラを三脚に取り付けて撮影する場合に、リモートコードを取り付ければ、カメラぶれの防止に役立ちます。カードホルダーを開け、リモートレリーズターミナルのカバーをはずして、リモートコードを差し込んでください。

プログラムフラッシュ5400HS

ガイドナンバー54(ISO100,105㎜レンズ)の大光量フラッシュです。24㎜から105㎜までのレンズの画角をカバーします。
このカメラと組み合わせると、同調速度より高速のシャッター速度でフラッシュ撮影が可能になるため、日中シンクロ撮影でも背景をぼかしたポートレートらしい写真を撮ることができます。
また、フラッシュ光による影の方向や大きさを撮影前に確認できる、モデリング発光機能を備えています。
その他にも、ケーブルを使わずにオフカメラ撮影が楽しめるワイヤレスフラッシュ撮影や、露光中にフラッシュを連続発光させて被写体の動きを重ねて写し込むマルチ発光など、多彩な機能を備えています。

縦位置コントロールグリップVC-700

このカメラに取り付けることで、縦位置でのカメラの保持をより確かなものにすることができます。また頻繁に操作するダイヤルやボタン類については、カメラボディと同じものを備えており、縦位置でも横位置とほぼ同じ感覚でカメラを操作できます。
また電源として、リチウム電池、アルカリマンガン乾電池、Ni-Cd電池の3種類が使えますので、用途や目的に応じて使い分けることができます。
シンクロターミナルが付いていますので、大光量の外部フラッシュを使った撮影ができます。

ホールディングストラップHS-700

このカメラに取り付けることで、横位置でのカメラの保持をより確かなものにすることができます。
※ホールディングストラップHS-700を取り付けるには、縦位置コントロールグリップVC-700が必要です。

取り扱い上の注意

内蔵フラッシュ撮影の注意

●焦点距離24mm未満の広角レンズで内蔵フラッシュ撮影をすると、写真の周辺が暗くなることがあります。

●内蔵フラッシュで撮影する場合には、フラッシュ光がレンズでさえぎられて写真の下部に影ができることがあります。以下のことに気を付けて撮影してください。

- 1m以上離れて撮影してください。
- レンズフードは取り外してください。

●下記のレンズ使用時は、フラッシュ光がレンズでさえぎられるため、内蔵フラッシュによる撮影はできません。
ハイスピードAFアポテレ 300mm/F2.8
AFアポテレ 300mm/F2.8
ハイスピードAFアポテレ 600mm/F4
AFアポテレ 600mm/F4

●下記のレンズで内蔵フラッシュ撮影をするときは、広角側でフラッシュ光がレンズでさえぎられることがありますので、フラッシュ撮影には、専用フラッシュの使用をおすすめします。詳しくはサービスセンター、サービスステーションにお問い合わせください。
AFズーム28−85mm/F3.5−4.5
AFズーム28−135mm/F4−4.5
AFズーム28−70mm/F2.8G

電池についての注意

- 電池を火の中に投入したり、充電、ショート、分解、加熱したりすると、発熱、発火、破裂の原因となり非常に危険ですので、絶対にしないでください。

- 撮影可能本数(98ページ参照)はカメラの使い方、使用温度によって変わります。表記の値より少なくなることもありますので、海外旅行や寒いところでカメラをご使用になる場合は、予備の電池を用意されることをおすすめします。
- リチウム電池は低温下の特性にも優れていますが、0℃以下ではやや電池特性が低下します。寒いところでご使用になるときは、カメラや予備の電池を保温しながら撮影してください。なお、低温のため性能が低下した電池でも常温に戻せば回復します。
- 新品電池を初めてお使いのとき、それまでその電池が保管されていた状況によっては、電池の容量チェックの際に が点灯することがあります。その場合、いったんメインスイッチをLOCKにし再度ONにする操作を数回繰り返すと容量が回復します。

- ボタン(リチウム)電池をまちがってお子様が飲み込んだりしないよう、お子様の手の届かない場所に置くなど取り扱いにご注意ください。万一、飲み込んだ場合は直ちに医師にご相談ください。

使用温度について

- このカメラの使用温度範囲は－20～50℃です。ただし、日付や時間を写し込む場合、0℃以下ではきれいに写し込めないことがあります。
- カメラの表示は液晶を用いているため、低温下では反応がやや遅くなったり、60℃ぐらいの高温下で黒くなってしまうことがあります。このような場合も常温に戻せば、正しく機能します。
- カメラに急激な温度変化を与えると、内部に水滴を生じる危険性があります。スキー場のような寒い屋外から暖かい室内に持ち込む場合は、屋外でカメラをビニール袋に入れ、袋の空気を出して密閉します。そのまま、室内の温度になじませてからカメラを取り出してください。

その他の注意

● 内蔵フラッシュを連続して使用した場合、発光部が熱くなることがあります。また発光の瞬間は、発光部がたいへん熱くなります。発光部に皮膚はもちろん、物を密着させて発光させないでください。

● カメラは精密機械ですので、取り扱いには注意してください。とくに、シャッター幕、ミラー、レンズの信号接点などに傷がつかないように気を付けてください。

● このカメラは防水構造ではありません。万一、水にぬれたときは乾いた布で水をふきとり、すみやかに当社サービスセンターまたはサービスステーションにお持ちください。

● このカメラをバッグなどに入れて持ち運ぶときは、メインスイッチをLOCK位置にしてください。

● 空港の手荷物検査を受けるとき、カメラの中にフイルムが入っているとX線で感光してしまうことがあります。検査官にフイルムが入ったカメラであることを伝えて、X線の照射を避けてください。

● カメラに異常が生じているとき、ボディ表示部に"*HELP*"と表示されたり、まったくカメラが動かなくなってしまうことがあります。このような場合は、電池を一度取り出し、入れ直してください。それでも直らない場合、また何度も繰り返して"*HELP*"が出る場合はお近くの当社サービスセンターまたはサービスステーションにお問い合わせください。

● このカメラの機能を活用していただくためには、当社独自のノウハウによりボディ特性に適合するように設計製造管理されているレンズおよびアクセサリーの使用をおすすめします。当社製品以外の付属品をお使いになる場合、いかなる事象が生じるかは予想いたしかねます。

● 海外旅行や結婚式など大切な撮影のときは、前もって作動の確認、またはテスト撮影をしてからご使用ください。また、予備の電池を携帯することをおすすめします。

● 万一、このカメラを使用中に、撮影できなかったり、不具合が生じた場合の保証についてはご容赦ください。

手入れの仕方

●カメラボディの表面は、柔らかいきれいな布でふくか、市販のブロアブラシでほこりを吹き飛ばしてください。特に海辺で使った後は、真水を少量浸した布で塩分をふきとり、乾いた布でよくふいて乾かしてください。

●レンズやフイルム室内を清掃するときは、ブロアでほこりを除き、柔らかいきれいな布で軽くふきとってください。その際、シャッター幕や接点に傷をつけないように気を付けてください。エアボンベタイプのブロワのご使用はおすすめできません。汚れがひどい場合は、当社サービスセンター、サービスステーションにお持ちください。

●シンナー、ベンジンなどの有機溶剤を含むクリーナーは絶対に使わないでください。

保管の仕方

●カメラケースを外し、風通しの良いところに置いてください。湿気の多い時期には、ポリエチレン袋などに乾燥剤と一緒に入れるとより安全です。

●長期間使用しない場合は、電池を抜いてください。

●長期間使用しないと、カビや故障の原因になってしまうことがありますので、ときどきシャッターをきるようにしてください。また、ご使用前には、整備点検されることをおすすめします。

●防虫剤の入ったタンスなどには入れないでください。

●直射日光下の車の中など、極度の高温下にカメラを放置しないでください。

アフターサービスについて

●本製品の補修用性能部品は、生産終了後10年間を目安に保有しています。

●アフターサービスについては、添付の「アフターサービスのご案内」に詳しく記載していますのでご覧ください。

主な性能

項目	性能
●オートフォーカス方式	方式：TTL位相差検出方式 検出素子：CCDラインセンサー 検出範囲：EV－1～19(ISO100) AF制御自動切り替え 動体予測フォーカス制御
●AF補助光	低輝度または低コントラスト時自動発光 作動距離範囲：約0.7～7m 専用フラッシュ装着時必要に応じてフラッシュの内蔵AF補助光に自動切り替え
●測光方式	TTL開放測光 多分割測光(測光値ファジイ演算) スポット測光 中央重点的平均測光 受光素子：多分割ハニカムパターンSPC(シリコンフォトセル) フラッシュ光調光用SPC 測光範囲：EV0～20 スポット測光時はEV3～20(ISO100、F1.4レンズ)
●シャッター	電子制御式縦走りフォーカルプレーンシャッター シャッター速度：1／8000～30秒、バルブ(露出時間はカメラの電池寿命により制限) フラッシュ同調最高速度：1／200秒 ハイスピードシンクロ機能使用時は1／8000秒 ワイヤレスフラッシュ撮影時は1／60秒
●内蔵フラッシュ	ガイドナンバー：12 照射角：焦点距離24㎜をカバー 充電時間：約2.5秒(カメラと電源を共有) 手動アップ／ダウン 赤目軽減用プリ発光可能 プログラムフラッシュとの組み合わせでワイヤレスフラッシュの制御可能
●パノラマ撮影	途中切り替え可能
●ファインダー	透過型液晶表示付全面アキュートマット 視野率：縦92%×横94% 倍率：0.75倍(50㎜レンズ、∞位置) 視度：－1ディオプトリー アイポイント：22.9㎜(接眼枠より18.7㎜)
●フォーカシングスクリーン	全面アキュートマット(G型) サービスセンター・サービスステーションにて方眼マット(L型)または目盛線式(S型)に交換可能

●フイルム給送　オートローディング(1コマ目まで自動送り)　1コマ撮影／連続撮影(3コマ／秒)／多重露光(2コマ)切り替え可能　オートリターン　途中巻き戻し可能

巻き戻し時間	通常時	高速巻き戻し設定時
24枚撮りフイルム	約15秒	約8秒
36枚撮りフイルム	約23秒	約12秒

●フイルム感度　DXコード付フイルム使用時は自動設定(ISO6～6400)　手動設定可能(ISO6～6400　1／3ステップ)
(手動設定したときは、次回同一DXコードの場合、手動設定した値を保存)

●撮影可能本数

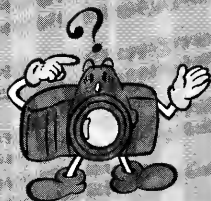
温度	20℃	−20℃
フラッシュ　使用しない	約60本	約20本
フラッシュ　50%使用	約25本	約10本
フラッシュ　100%使用	約15本	約5本

試験条件　24枚撮りフイルム、新品電池使用、アイスタートスイッチON
使用レンズ：AFズーム24－85mm／F3.5－4.5
レンズを1コマ毎に無限遠から最近接まで3回往復させ、
シャッターボタン半押しで10秒保持後レリーズ

※36枚撮りフイルムの場合は、上記の2／3程度の本数になります。
※電池は、実際に撮影しなくてもカメラを操作することで消耗します。電池を長持ちさせるために、撮影しないときは、メインスイッチをLOCKにしてください。

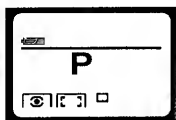
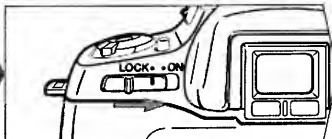
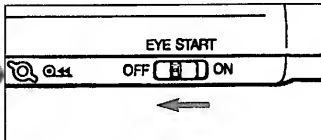
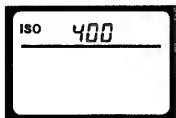
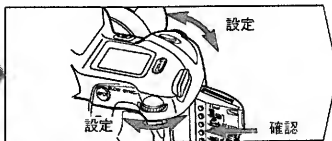
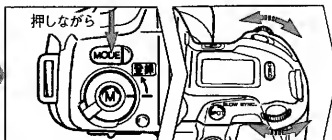
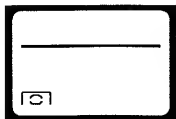
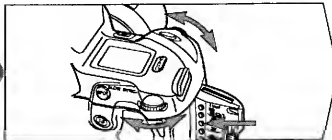
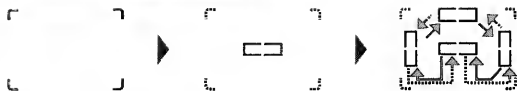
●大きさ　153.5(幅)×98.0(高さ)×71.5(奥行き)mm

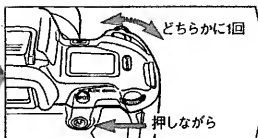
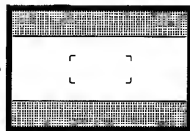
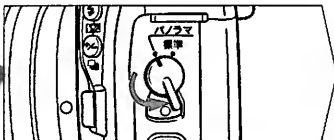
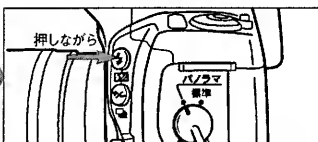
●重さ　605g(電池別、クォーツデート用電池含む)

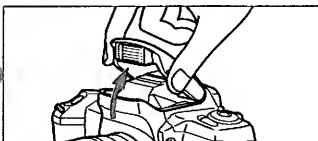
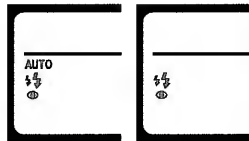
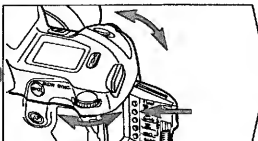
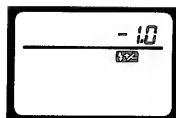
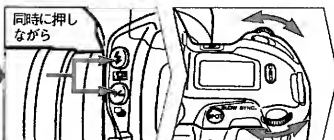
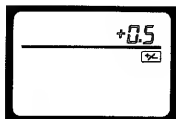
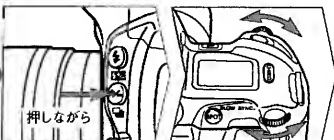
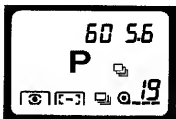
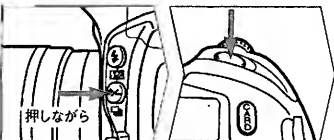
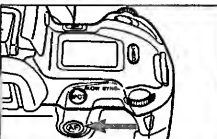
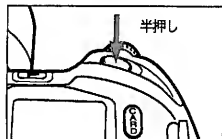
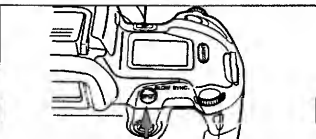
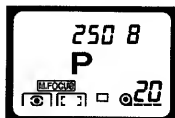
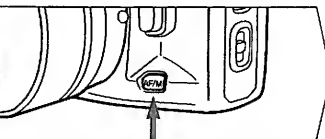
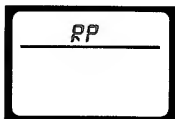
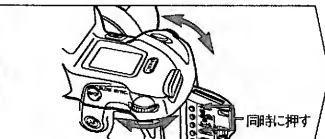
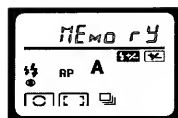
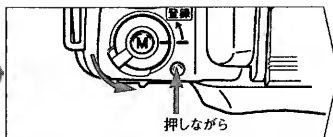
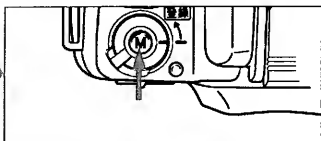
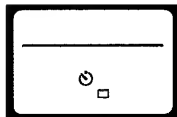
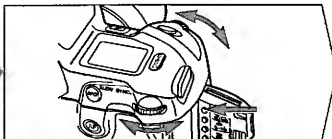
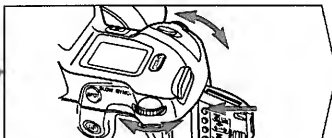
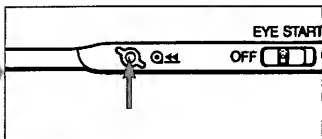
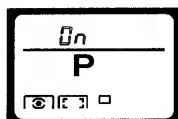
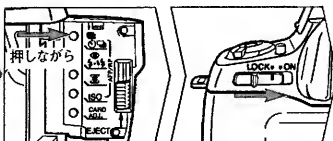
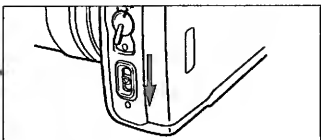
本書に記載の性能は当社試験条件によります。
本書に記載の性能および外観は都合により予告なく変更することがあります。

○○○したいときは…

HELPが出た

電池を一度取り出し、入れ直してください。
それでも直らない場合、また何度も繰り返して出る場合は、お近くの当社サービスセンター、サービスステーションにお問い合わせください。

電池の容量を確認したい

アイスタートを働かせないようにしたい

フイルム感度を確認・設定したい

撮影モードを変えたい

測光方式を変えたい

フォーカスエリアを変えたい

ローカル → ワイド

パノラマ撮影したい

内蔵フラッシュを必ず発光させたい

内蔵フラッシュを発光させたい

A・S・Mモード

赤目防止プリ発光にしたい

フラッシュの光量を補正したい
同時に押しながら
-1.0
露出補正したい
押しながら
+0.5
ブラケット撮影したい
押しながら
60 5.6
P
19
ピントと露出を固定させたい
AFボタン または シヤッターボタン
または
半押し
露出だけを固定させたい
手動でピントを合わせたい
AF/M
250 8
P
M.FOCUS
20
レリーズ優先にしたい
RP
同時に押す

カメラの状態を登録したい

登録した状態を呼び出したい

セルフタイマー撮影したい

連続撮影にしたい

フイルムを巻き戻したい

フイルム巻き戻しを速くしたい

フイルムを取り出したい

ミノルタ株式会社
ミノルタ販売株式会社

使い方に関する不明な点は、下記住所のフォトアドバイザーがお答えいたします。

サービスセンター

新　宿	〒160-0022	東京都新宿区新宿3-17-5（カワセビル3階）	TEL(03)3356-6281㈹
大　阪	〒530-0001	大阪市北区梅田1-11（大阪駅前第4ビル7階）	TEL(06)6341-6501㈹

サービスステーション

札　幌	〒060-0807	札幌市北区北7条西1-1-5（丸増ビルNo.18）	TEL(011)737-1212㈹
仙　台	〒980-0802	仙台市青葉区二日町14-15（アミ・グランデ二日町ビル3階）	TEL(022)261-3431㈹
横　浜	〒231-0015	横浜市中区尾上町4-47（大和横浜ビル3階）	TEL(045)663-1445㈹
静　岡	〒420-0857	静岡市御幸町5-9（静岡FSビル7階）	TEL(054)251-7301㈹
名古屋	〒460-0002	名古屋市中区丸の内1-4-12（アレックスビル4階）	TEL(052)239-1251㈹
広　島	〒730-0041	広島市中区小町3-25（住金物産広島ビル1階）	TEL(082)247-3978㈹
高　松	〒760-0078	高松市今里町1-17-20	TEL(087)835-5568㈹
福　岡	〒812-0013	福岡市博多区博多駅東3-4-10（コマバビル1階）	TEL(092)441-6121㈹

営業時間 ‥‥‥‥‥‥‥新宿・大阪　10:00～18:00（日曜・祝日定休）
その他　9:00～17:30（土曜・日曜・祝日定休）

9223-2089-61 N-H906